

1. 件名：志賀原子力発電所2号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（77）

2. 日時：令和5年11月29日（水）16時00分～18時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：野田安全管理調査官※、海田主任安全審査官、宮脇安全審査専門職、大井安全審査専門職

北陸電力株式会社：藤田執行役員 他8名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<本年11月13日受取済>

- ・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 敷地周辺（海域）の断層の評価（コメント回答）
- ・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 補足資料（敷地周辺（海域）の断層の評価）
- ・志賀原子力発電所 2号炉 適合性審査コメントリスト（敷地周辺の地質・地質構造）

時間	自動文字起こし結果
0:00:04	では始めます規制庁の宮脇です。
0:00:07	それでは志賀原子力発電所 2 号炉、敷地周辺海域の断層の活動性評価に係るヒアリング資料の
0:00:16	について、
0:00:18	の、
0:00:18	ヒアリング、
0:00:20	を行いたいと。
0:00:22	最初にですね個別IIの断層の評価で、
0:00:27	富山湾西岸域
0:00:30	断層について、
0:00:31	なんですけども
0:00:34	そうか。失礼しました。まず最初に
0:00:37	ヒアリング資料、
0:00:39	Noへ主に変更箇所を中心にちょっと説明していただけないでしょ
0:00:47	はい。
0:00:48	よろしいですかね。
0:00:49	はい北陸電力の吉田ですね本日はよろしくお願いいたします。
0:00:53	まず資料の確認をさせていただきます。3 点ございます。コメント回答と、
0:00:58	表紙に書いたものが本資料、そして補足資料。
0:01:02	そして本日の参考としてコメントの一覧をつけております。
0:01:07	それではですね、周辺の海域断層としまして、10 月 6 日の審査会合で、
0:01:13	いただきましたコメントへの回答についてご説明いたします。
0:01:17	まず私の方からですね、本資料の冒頭におつけした概要について説明した後に、
0:01:24	本部での詳細につきまして、石田から説明いたします説明は大体 30 分程度を予定してございます。
0:01:32	ちょっと本紙の 4 ページをお願いいたします。
0:01:37	はい。ここでは評価の名全体の流れを示してございますが、紫色の文字が、前回会合から修正した箇所です。以降のページも、こういうふうにして表示してございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:01:49	ここで大きな変更点はございませんが1点補足させていただきます。右の余白にですね、同時活動、そして連動という用語について、今回しっかり定義を書きました。
0:02:02	この二つの方につきましては、国の評価でも用いられておりますが、その使い分けというのが明確にありませんので、
0:02:09	今回この資料の説明に当たりましてしっかり定義づけをしております。調整は本文で説明いたします。
0:02:15	続きまして飛びまして15ページをお願いいたします。
0:02:21	はい。
0:02:22	ここにですね、前回の会合でいただきました7項目のコメントをすべて並べております。
0:02:30	そして右の方には回答の概要も示しております。
0:02:33	以降のページはですねそれぞれ、回答について、1ページでまとめておりますが、その中で、
0:02:40	この一番上の67番、そして68番。
0:02:44	この二つのコメントにつきましては、介護そしてヒアリングでもですね、論点になっておりますので、冒頭私の方から、概要について簡単に説明させていただきます。17ページお願いいたします。
0:03:00	67番の、これ、海士岬沖断層体の北端の評価。
0:03:05	についてでございます。
0:03:07	前回の会合ではですねここで左の図のようにですね、佐藤他の知見を踏まえまして、12.2キロ区間、12.2キロメートル区間を評価してございましたが今回、
0:03:20	文科省等の試験等も踏まえまして、北端を延伸させまして約20.3キロメートル、3、20.3キロ、
0:03:28	間を評価することを見直してございます。
0:03:32	この見直しに伴いまして、北方に分布しております笹波沖断層田井東部との連動の評価も、
0:03:41	検討し、評価を見直してございます次の18ページお願いいたします。
0:03:49	はい。
0:03:49	この両断層の関係につきましては、これまでも説明しましたが、深部で分岐する知見があるということ、そしてこの断層の上盤側が、
0:04:00	笹波沖行きたいと、同じ隆起体であることということ、そして、
0:04:05	併走する期間を伴って分布してるということから、この両断層の
0:04:12	連動を今回新たに考慮するということに評価を見直してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:18	続きましてその下 19 ページをご覧ください。68 番のコメントの回答の概要でございます。
0:04:27	ここはですね、笹波沖断層体の東部と、猿山セグメントの間の、
0:04:34	レンドですね、この有無を、を評価するに当たりまして、
0:04:39	その東方にあります、能登半島北部沿岸域の四つの断層、
0:04:45	そしてこの西の方は、笹波沖断層体の西部二つの断層系、六つの断層とですね。
0:04:53	その断層間の状況につきまして、上の方から文献調査、音波探査、そして重力そして活動履歴といった、
0:05:01	連動評価するための各行も食うをですね、一覧に表として見やすく整理しております。
0:05:08	ここで青で書いた文字は、連動しないと。
0:05:13	連動しない可能性を示唆するデータでございます。
0:05:16	一方、赤で書いた文字のところは連動する可能性を示唆するデータということを表してございます。
0:05:23	ここでは結論だけ申しますが、ポイントとなっております。この表の中ほど、笹波沖断層田井東部と、猿山セグメントの間の状況としましては、
0:05:35	すべての項目におきまして連動を視察しない、青系のモリのデータとなっております、
0:05:43	こういったものをすべて見て総合的に評価して、改めてこの間の連動は考慮しないということと、我々評価してございます。
0:05:52	以降のページはですね、この後の
0:05:57	コメントも回答含めまして、この後の所、本文の方で、
0:06:00	説明させていただきます。引き続きイシダの方に説明を移ります。よろしく申し上げます。
0:06:08	栗城電力の石田です。
0:06:10	それでは、本文について前回の審査会合からの変更点を中心にご説明いたします。
0:06:16	まず 30 ページをお願いします。
0:06:23	それで 30 ページはコメントナンバー 73 番の回答となりまして、能登半島周辺の地質構造の特徴の基礎データといたしまして、左にある図を、ひずみ集中体の部分はわかる図に変更しております。
0:06:37	こちらについては岡村 2007Bによれば、能登半島には技術のひずみ集中体がありまして、その中でも、奥川から西側に伸びるひずみ集中体の中で、2007 年能登半島地震が発生したと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:49	いうふうにされております。
0:06:52	続いて 49 ページをお願いいたします。
0:06:59	こちら今回海上音波探査による断層の表記方法を記載したページを追加しております。
0:07:06	こちら協議方法について、これまでと変更した点としましては、下にあります図 2 にありますような、記録からは認定できないものの、隣接する測線、
0:07:18	から、断層ですとか撓曲が推定される場合については、これまではその想定位置に下線で断層もしくは撓曲のマークを断面記録に記載していましたけれども、
0:07:30	これについては、あくまで記録から読めるものとして記載しないということとしております。
0:07:35	ただし、断層構造が連続する可能性が否定できないということで、我々の解釈として、平面図の方には、断層トレースとして薄い茶色で
0:07:45	トレースとして記載するというふうな整理をしております。
0:07:50	こちらのページにはその他にも、建材断層、伏在断層の説明ですとか、記録上における断層線の実線波線の説明等を記載しております。
0:08:01	こちらのページにつきましては、データ集のほうにも添付する予定でして、メディア種については現在、各断面記録についての確認を行っている最中でございます。
0:08:12	別に 62 ページの方をお願いいたします。
0:08:19	こちら海域の活断層評価フローとなりまして、陸域の活断層評価フローにも同様な修正を行っております。
0:08:25	こちらコメントNo.69 番と 72 番への回答となります。
0:08:31	まずコメントNo.69 番の回答につきましては、連動評価のフローの明確化等についてを反映しておりますけれども、これについては後程の参照の追加の連動評価の方で詳しく説明をいたします。
0:08:44	コメント 70、コメントNo.72 番につきましては、右下の方に、※3 で紫色で記載しておりますけれども、
0:08:53	30 キロ以遠の断層の断層長さを文献調査によって決める場合の当社の考え方を追記しております
0:09:01	原則としましては断層長さにつきましては最も長く評価している文献調査結果を反映することとしております。
0:09:08	ただし文献よりも、断層長さを、その文献よりも断層長さを短く評価している文献であっても、最も長く評価した文献を踏まえたものであると。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:18	ということが明確な場合は、より新しい文献調査結果を反映することとしております。
0:09:24	例としまして 284 ページの方をお願いいたします。
0:09:38	こちら 284 ページは、能登半島東方沖の断層の評価結果となりまして、こちら文献調査結果によって断層長さを評価した断層になっております。
0:09:49	この断層の北東丹につきましては、最も長く示されているのは、水色で記載しております国交省から 2014 になりますけれども、その後公開されている文科省が 2015 につきましては、この国交省ほか 2014 を踏まえた
0:10:05	内容となっていることを踏まえてまして、
0:10:08	緑色で示しております文科省が 2015 の文献調査結果を反映して断層長さを決めております。これについて今回明記をしております。
0:10:18	この能登半島東方沖の断層以外にも、KZ3KZ4、
0:10:22	A系Z5NP1、NTにNTG3 についても同様な考え方で、断層長さを評価しております。
0:10:32	それでは少しページ戻っていただきまして 73 ページの方をお願いいたします。
0:10:45	こちら海士岬沖断層THAIの評価結果のページになりまして、コメントNo. 67 番への回答となります。
0:10:52	こちらも 9 時前でも簡単にご説明いたしましたが、
0:10:55	前回の審査会合で、笹波沖断層田井東部の分岐断層と、
0:11:00	評価していました笹波沖隆起単位内の断層につきましても、今回、海士岬沖断層体の北部区間として評価をすることとしました。
0:11:10	断層長さに関しましては、海上音波探査の結果からは、N6 測線からK 18 測線までの区間と、
0:11:18	いうふうに評価することができますが、国交省ほか 2014 ですとか、文科省が 2015 といった文献の断層トレースが、これらの測線を超えて示していると。
0:11:30	ということがありまして、文献のトレースを網羅する、位置で我々評価するというので、文献を網羅する位置で断層がないことを確認しました。
0:11:40	ナンバー107-11 測線からNo.8 測線までの約 20.3 キロ区間を今回評価することといたしました。
0:11:51	次に 120 ページの方をお願いいたします。
0:12:00	こちら笹波沖断層田井東部と西部の連動評価についてですが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:06	後程、この笹波沖断層ザイゼン町と能登半島北部沿岸に断層ダイウ連動評価結果の比較を行っておりますけれども、その日比較結果に伴いまして表現の適正化を一部行っております。
0:12:19	それについて紫字で記載をしております。
0:12:22	また、123 ページ。
0:12:25	123 ページの方には、
0:12:29	今回、海士岬沖断層体の評価を見直しておりますけれども、前回までは、笹波沖断層田井東部西部の営業部分について、海士岬沖断層体と笹波沖断層ダイウ部の連動評価の承認、
0:12:42	整理をしておりましたけれども、今回、こちらの方に、その結果を追加をしております。
0:12:49	別に、206 ページの方お願いいたします
0:13:01	206 ページは、外山西側海域断層の評価結果のページとなりますが、
0:13:06	今回断層長さを算出するに当たりまして、外山西側海域断層北部区間、
0:13:13	に関して、
0:13:16	これについては海上音波探査で認められなくなるナンバー3 測線を、北東たん。
0:13:22	として、断層長さを算出しておりました。
0:13:26	ただ、先ほどの海士岬沖断層体と同様に、この測線を超えて、緑色で示します文科省ほか 2015 が断層トレースを図示していることを踏まえまして、
0:13:37	この区間を含めるように今回断層長さを算出することといたしました。
0:13:43	これにより、断層長さを 79 キロから 80 キロに今回見直しております。
0:13:49	この断層の活動性評価結果ですとか、断層全体の北東タンナーセンターの評価に変更はございません。
0:13:59	次に、264 ページをお願いいたします。
0:14:12	264 ページ、こちら能登半島北部沿岸総体の連動評価結果のページとなりますが、
0:14:18	こちら笹並木断層田井東部西部の連動評価と同様に、表現の適正化等を行っております。
0:14:26	また、この後 268 ページから 270 ページにかけて、各セグメント境界を拡大しました重力異常図を添付しております、
0:14:37	各セグメント境界の重力異常の傾向が、わかりやすいように図を今回追加しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:44	さらに、271 ページの方には、変位量分布を追加しております、荒谷真島沖セグメントと鈴置セグメントのデータを追加しております。
0:14:55	その結果、各セグメント境界では、変位量分布は収束しております、後期更新世以降に一連で活動した傾向は認められないという結果がやられております。
0:15:06	ただし鈴置セグメントと六甲セグメントの境界から東側につきましては、高分解能のブーマー等のAB湾層を区分できる測線がないということから、今回こちらについては、データを示しておりません。
0:15:22	次に 172 ページの方をお願いします。
0:15:28	272 ページ能登半島北部周辺で、
0:15:31	過去に発生しました地震活動について整理したページとなっております。
0:15:35	このうち、右上の 1993 年能登半島沖の地震につきましては、これまで鈴置セグメントに関連する可能性があるというふうに判断をしておりました。
0:15:46	ただこの地震とスズキセグメントの関連性につきましては、文献等に、文献等で明確にされていないと。
0:15:53	いうことを踏まえまして、今回スズキセグメント、もしくは近接する六甲セグメント、
0:16:00	との関連性については、判断できないというふうに判断を変更しております。
0:16:07	それでは次に追加の連動評価の変更点についてご説明いたします。347 ページの方をお願いいたします。
0:16:21	まず 347 ページは、検討方法の概要が書かれておりますけれども、変更点は紫字で記載しております、詳細について説明していきます。
0:16:30	まず 348 ページの方をお願いいたします。
0:16:36	こちらコメントNo.71 番の会場となりますが、検討対象断層とする断層の組み合わせの選定にあたりまして、上の四角のほうに※2 で紫字で記載しておりますが、
0:16:49	2 章で抽出した断層に加えまして、それに近接して分布する敷地への影響が小さな断層も検討対象と今回しております。
0:16:58	349 ページには、この変更により、18 番、右の表で 18 番、書かれておりますトナミ部屋断層体制部。
0:17:09	と高岡断層の組み合わせを新たに選定して連動の検討を行っております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:15	次に 351 ページをお願いします。
0:17:21	こちらはコメントNo.69 番の回答となりまして、ステップ 2 の国による評価事例の確認において、評価の記載を、実際の文献の記載を正確に記載すると。
0:17:34	いうふうにした上で、ステップ 3 の方で、当社の連動評価をフロー形式で明確に示しました。
0:17:42	国による評価事例の確認として、当社地震調査委員会の長期評価と、国交省が 2014 の内容を確認しておりますが、
0:17:49	まず 352 ページの方に、地震調査委員会の長期評価について整理をしております。
0:17:57	地震調査委員会は、地表における断層の分布形状に基づきまして、起震断層を設定し、その起震断層全体が同時に活動した時のジンノ評価を行っているというものになっております
0:18:09	我々はそれがどのようなデータを用いて起震断層を設定しているかということを確認して、一つの起震断層に設定しているか、もしくは設定していないかという。
0:18:19	ふうに表現を今回見直しております。
0:18:23	また地震調査委員会は、主断層とオク断層の関係にあると評価したもののについては、一つの起震断層として設定し、主断層のみで断層モデルを作成していると、いうことも確認しております。
0:18:37	申し訳ありませんがこのページで 1 点修正がございまして、
0:18:41	下の左の表の方の上から 2 番目ですね。
0:18:46	横手盆地断層体北部ですが駒形武居断層群の一部の断層、広山断層について、地震調査委員会の評価が、一つの起震断層として設定というふうに赤字で記載されておりますが、
0:19:00	こちらについては正確には、同時に活動する可能性があるというふうに文献中に記載されておまして、一つの起震断層としてはしていなかったもので、これについてはでかい、同時に活動する可能性があるというふうに表現を適正化させていただきたいと思えます。
0:19:19	すいません。それでは次のページ 353 ページの方をお願いいたします。
0:19:25	こちらは、国交省ほか 2014 について整理をしておまして、こちらは、最大規模の津波想定のための津波断層モデルを設定すると。
0:19:35	いうことを念頭に、同時破壊すると考えられる断層体をグルーピングするというふうな考え方でございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:41	従いましてこちらについてはグルーピングする、もしくはグルーピングしないと。
0:19:46	いうふうに表現を今回見直しております。
0:19:52	これらを踏まえまして 355 ページの方に、ステップ 3 といたしまして、
0:19:57	これらの評価事例を参考にし、当社の連動評価フローを作成し、連動を考慮するか否かの検討を行うこととしております。
0:20:06	右の方に評価フロー、左の方にそのフローの詳細な説明を記載しております。
0:20:14	まずこのフローの上から順に、ステップ 1 で選定しました検討対象の検討対象断層の組み合わせのうち、地表での断層位置、形状から、
0:20:25	まず断層トレースが併走するかないかということを確認しております。
0:20:30	断層トレースが併走しない場合につきましては、下におりまして、両断層が震源断層として活動する松浦、つまり主断層と主断層の関係として、
0:20:41	同時活動するかの可能性の検討を行っております。
0:20:46	その結果に応じまして、断層モデルを設定することとしまして、連動を考慮する場合は一連の断層として断層モデルを設定すると。
0:20:55	連動を考慮しない場合は別々の断層として断層モデルを設定するというふうにしております。
0:21:02	一方断層トレースが併走する場合は、フローが右の方に行きまして、地下深部の断層形状、位置関係の検討を行うこととなります。
0:21:12	片仮名のハの字。
0:21:13	下タカノは、野地の形態のように、地下で収れんする位置関係にない場合につきましては、主断層と主断層の関係として、また、左の方に戻りまして同時活動の可能性の検討を行っております
0:21:28	タダYの字のように、地下で収れんする位置関係にある場合につきましては、一方の断層は地下深部に連続せず、一方の断層のみが震源断層として活動する。
0:21:40	つまり主断層と副断層の関係にあるというふうに判断しまして、同時活動の可能性の有無にかかわらず、連動を考慮しないということで右下に行くというふうな考え方でございます。
0:21:53	この場合、いずれの断層の主断層であるかというふうな検討を行いまして、これが判断できる場合は、主断層のみを断層モデルとするとして設定しますし、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:03	判断できない場合は、それぞれが主断層となるケースを個別に断層モデルとして設定することとしております。
0:22:11	これに基づきまして、連動評価を行った結果が 356 ページに示しております、
0:22:17	今回新たに 8 番に記載されてます、海士岬沖断層サイトウ笹波沖断層ダイトウ分、
0:22:24	18 番のトナミ部屋断層体制部の高岡断層、
0:22:29	19 番のハヤマニシカワ会議断層と津波部屋断層体制図、高岡断層の連動を考慮することとしました。
0:22:38	それでは次に個別の連動ケースについて、変更点をご説明いたします。
0:22:43	まず 362 ページの方をお願いいたします。
0:22:53	362 ページは福浦断層と兜岩沖断層のエンドウの検討結果のページになりまして、
0:23:00	コメントNo.70 番への回答となります。
0:23:04	今回作成しました連動検討フローに基づきまして、表を修正しております、
0:23:10	大きく黄色の枠で書いてありますのが連動の検討。
0:23:14	緑色の枠で書いてありますのは、断層モデルの設定方法。
0:23:18	いうふうに分けて整理をしております。
0:23:21	これにつきましては他の連動ケースに共通の修正となります。
0:23:27	まずフクダ断層と兜岩沖断層の地表での断層位置、形状を確認した結果につきましては、断層トレースがそうするということから、地下深部の断層形状、位置関係の検討を行っております。
0:23:41	その結果、フクダ断層と兜岩沖断層は地下で収れんする位置関係にありますので、主断層と副断層の関係にあるというふうに判断をしております。
0:23:51	従って 1 本のみが震源断層として活動すると判断されることから、連動を考慮しないというふうに判断をしております。
0:24:00	次にこのケースの断層モデルを設定するに当たりまして、いずれが主断層であるかの検討を行っております
0:24:07	今回新たに平均変位速度のデータを追加しております、これらの各調査データから、フクダ断層とか宇都岩木断層のいずれが主断層であるか、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:17	につきましては、明確には判断できないというふうに判断しまして、断層モデルについては、福浦断層と兜岩き断層のそれぞれが主断層となるケースを個別に設定すると。
0:24:29	いうことをしております。
0:24:31	以降に検討に用いたデータを添付しておるんです。
0:24:35	次、409 ページの方をお願いいたします。
0:24:41	1、
0:24:44	409 ページは海士岬沖断層帯と笹波沖断層ダイウ部の連動の検討結果のページになります。
0:24:53	海士岬沖断層体と笹野宮沖断層ダイウ分につきましては併存しない関係ということと、ことから、同時活動の可能性の検討を行っております。
0:25:03	前回の審査会合から海士岬沖断層帯の断層長さを変更しておりますので、この連動の検討結果についても変更しております。
0:25:12	410 ページの図もあわせてご覧いただきますと、
0:25:17	409 ページの海上音波探査の欄の②③の結果から、笹波沖断層田井東部と海士岬沖断層体の北部、中間部につきましては、
0:25:28	分布する位置はそれぞれ異なりますが、同じユキ谷分布しているということがわかっております。
0:25:34	また、海士岬沖断層等の北部土佐佐貫断層ダイウ分は、一部が、そうしている。
0:25:41	さらに、2007 年能登半島地震の知見から、この海士岬沖断層体の北部と笹波沖断層ダイウ部は、深部から分岐していると、分岐している間、
0:25:51	原因あるというふうにされております。
0:25:55	以上のことを踏まえまして、海士岬沖断層体と笹波沖断層体東部の連動を今回新たに考慮することとしまして、約 34.2 キロ区間を評価することと変更しております。
0:26:09	次、453 ページの方をお願いいたします。
0:26:19	453 ページは笹波沖断層泰然町と、能登半島北部沿岸域断層体の連動の検討結果になります。
0:26:27	こちらにつきましては、連動を考慮しないとしました評価結果に変更は今回ございませんが、コメントNo.68 番への回答といたしまして、連動をすでに考慮しております笹波沖断層、ザイゼン町と能登半島北部沿岸域断層体、
0:26:43	の比較を行っております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:46	466 ページの方をお願いいたします。
0:26:54	この 466 ページにつきましては、ちょっと 1 ページで整理したいという思いがありまして、ちょっと文字サイズが小さくなってしまったところがありますので、今回別資料といたしまして A3 サイズに拡大した資料も、今回送付させていただきましたので、
0:27:09	そちらも併せてご覧いただければと思っております。
0:27:13	こちらについては、先日の面談を踏まえまして海上音波探査の欄に関して記載を充実させております。
0:27:22	笹野梅木断層ダイウ部と猿山オオキセグメントに関しましてですけれども、最も建設する位置につきましては、走向傾斜も異なりまして、トレースも連続しないと。
0:27:34	さらに、文献が示す背斜構造につきましても、
0:27:38	笹波
0:27:40	断層体の東部と西部の間ですとか、能登半島北部沿岸域断層体の各セグメント間につきましては、この背斜構造が連続して、文献で示されていると。
0:27:51	しかし、佐貫断層ダイウ部と猿山オオキセグメント間には、この背斜構造を示されていないと。
0:27:58	こういった違いをより明確に示し、
0:28:02	しております。
0:28:04	これらの取得データですとか評価内容を整理した結果ですけれども、佐貫断層体東部と猿山オオキセグメント間につきましては、連動高齢者文献はないと。
0:28:14	いうことに加えて、当社の連動結果、
0:28:17	連動の検討結果からも、連動する可能性を示唆するデータがないということから、連動を考慮しないと評価したことは、我々として妥当であるというふうに、
0:28:27	確認をしております。
0:28:31	次ページ以降には、このような六つのセグメントの詳細なデータを添付しております。
0:28:38	次に 478 ページの方をお願いいたします。
0:28:48	こちらコメント No.71 番の会長となりまして、トナミ部屋断層財政部と高岡断層の連動の検討結果となります。
0:28:56	文献調査の結果から、高岡断層を実施しております。五島ほか 2015 の方には、トナミ部屋断層体制部の一部であります。臨時断層と、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:07	この高岡断層を、連続するように新第3系、
0:29:11	及びコウ下部更新統の古井断層が図示されていると
0:29:15	また、地震調査委員会の方ではこのトナミ部屋断層財政部と高岡断層を一つの起震断層としては設定しておりません。
0:29:24	ただ、先日、出されました産総研の地質塾であります、滝内ほか 2023の方では、
0:29:32	コンペの方は明記されていないんですけども、高岡断層が、トナミ部屋断層体制部を構成する断層として記載がされております。
0:29:41	以上のことを踏まえまして、今回トナミフェア断層とSE部と高岡断層につきましても連動を考慮するということとしまして、約 37 キロ区間を評価しております。
0:29:54	続いて 490 ページの方をお願いいたします。
0:30:01	今ほど連動を考慮すると、ご説明いたしました。トナミ部屋断層体制部と高岡断層、
0:30:07	さらにその北方に位置しますとヤマニシ側会議断層との連動の検討結果となっております。
0:30:15	このケースにつきましては近接して維持しております高岡断層と、富山湾西側海域断層間のデータを確認しますと、この両断層間ってのは陸海境界に当たっております、
0:30:28	連続性を検討するための、断層の存否が確認できるような音波探査データがないと。
0:30:34	ということが一つあります。
0:30:36	ただ重力異常分布からは、高岡断層と外山ニシカワ甲斐断層の間には連続するような構造は認められておりません。
0:30:44	これらのことから重力異常の観点からは、連動しない可能性を示唆するデータがありますが、高岡断層が、両断層間の未調査エリアまで連続している可能性が否定できないと。
0:30:57	ということから、外山西側海域断層と隣接する位置関係にある可能性があるということ踏まえまして、同時に活動する可能性が否定できないと判断し、富山湾、トナミ部屋断層とsF高岡断層と外山ニシカワ赤木断層、
0:31:11	の連動を考慮することといたしまして、123 キロ区間を今回評価することとした、しました。
0:31:19	資料の説明は以上となります。
0:31:24	規制庁の宮脇です。ご説明ありがとうございました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:29	それでは
0:31:30	私の方からコメントさせていただきたいと思い
0:31:34	まず、個別の断層評価についてですけども、最初に、
0:31:39	外山清。
0:31:41	西側海域断層、ページ、206 ページを
0:31:54	と、これは何だ。
0:31:56	これで全科いい示していた断層トレース
0:32:00	より、少し長くなった。
0:32:04	先ほどのご説明でしたけども、
0:32:06	これ米印のところで、変更になったという
0:32:12	ことなんで
0:32:12	けど、この図に示したような
0:32:15	これがちょっと
0:32:17	もともとのトレースがどうで、どのように今回変更になったと。
0:32:22	かっていうのがちょっとわかりづらいんで、
0:32:25	何かその、
0:32:26	断層長を計測したトレースとか、
0:32:30	少しわかりやすく
0:32:33	示していただけない。
0:32:37	北陸電力 1 社です。
0:32:39	承知しました。こちらの断層長さをどういうふうに算出したかについて資料の方で、次回、どういうふうに算出したかがわかるようには、記載させていただこうと思いますけれどもまず
0:32:52	画面共有させていただいて、考え方だけまず、
0:32:56	今の時点でご説明させていただきたいと思います。
0:33:04	次、
0:33:13	今、206 ページの図を少し拡大させていただきまして、
0:33:19	この外山西側海域断層につきましては、北部とTBさんの境界辺りで、大きく層厚変化するため、通常断層長さを算出するときは北東たんと南西丹を、
0:33:35	単純に直線で結んで我々算出をしております。
0:33:39	ただし、これにつきましてはちょっと総合変化が大きいということで一部折れ点を黒い線のように折れ点を設けて断層長さを算出しております。
0:33:48	で、前回までの審査会合のときには、この外山西垣断層の北部、この約 7.0 キロ区間、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:57	というのが、我々海上音波探査結果から算出した断層長さになりますけれども、このグレーでちょっと見づらいですけど、グレーで示すこのナンバー3 測線のところで、
0:34:08	0 点を作りまして、ティービーさん
0:34:11	の、
0:34:11	オク東端までを結んで、断層長さを算出し 79 キロ区間を算出しております。
0:34:18	ただそうしますと、このPB2と書かれて、黄緑で書かれておりますけれども、この部分が、その評価長さに含まれていないということになって、
0:34:30	今回、海士岬沖断層隊の方でもそうでしたけれども、文献が示されてるものにつきましては、音波探査以外のデータも考慮されている可能性があるということを踏まえまして、
0:34:41	こういった文献についても網羅できるような断層の長さを、今回、
0:34:48	断層長さにするというような考え方に基きまして、この外山西垣断層も折れ点を、この
0:34:55	No. 3 測線のところから、このTbに、
0:34:59	文科省が示しておりますティービーの北東丹を折れ点といたしまして、ここからTbサノ北東段までを結んで、断層長さを算出するといった算出方法を今回、
0:35:09	行いました。これにより、断層長さが1キロ延びた。
0:35:15	というような、
0:35:16	変更経緯になります。
0:35:18	これにつきましては、こういったふうに断層長さが算出されているかというのはもうちょっと、資料上でわかるように今ほどの説明を資料に書き加えたいと思います。以上です。
0:35:29	はい、わかりました。じゃあよろしく願いいたします
0:35:33	次にですね、24 ページの
0:35:38	と、この断層端部の評価。
0:35:41	について、
0:35:44	この図は、
0:35:46	ノート版等、東方沖の図なんですけども、ここ、こちらの何か説明によるとですね
0:35:54	基本的に端部については、
0:35:58	複数の文献が示されている場合は、より新しい文献を反映した。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:05	として
0:36:07	文科相他 2015 は国交省ほか 2014 の著者である日本
0:36:14	日本海における大規模審査に関する調査検討会と共同で評価したものの。
0:36:20	であるというふうにあるんですけども、
0:36:23	これは
0:36:28	それでもってすべて、
0:36:31	その新しい
0:36:33	より新しい文献。
0:36:35	結果を反映して担保を決定したということなんで、
0:36:39	もう、
0:36:41	これ以外にも産総研とか、いろいろ
0:36:46	トレースを示してある期間があるわけで
0:36:49	そういった中で、
0:36:52	この端部っていうのが、
0:36:58	すべて新しい文献が正しいもの示しているのかというところがちょっと、
0:37:03	気になるところなんですけども。
0:37:05	そこは大丈夫なんですかね。
0:37:09	鳥井電力 1 社です。
0:37:12	我々の基本的な考え方としましては、より新しいものというよりは、
0:37:17	より長く示されているものを、
0:37:20	採用するというのが原則。
0:37:22	になっております。
0:37:24	なので、例えば、
0:37:26	産総研さんですとか、そういった、
0:37:29	他の、今の国交省ですとか文科省以外のものがより長く、
0:37:34	詰め
0:37:36	ある程度根拠を持ったものになりますけどもより長く示してきた場合は、そちらを採用するという考え方になります。
0:37:45	今のこの能登半島東方沖に関しましては、最も長く示してるのが国交省、
0:37:52	2 番目に長く示しているのは、文科省、
0:37:56	3 番目、ミツイ、
0:37:58	以降に、石川県ですとか、産総研。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:01	といった、
0:38:02	順番になってきます。
0:38:04	我々の原則的な考えで言えば、最も長く示しているのが国交省になりますので、国交省を採用するというのが、基本的な考え方にはなってくるんですけども、
0:38:15	ただ、文科省の方の文言を
0:38:19	文献を読み込みますと、
0:38:21	先ほど宮脇さんがおっしゃられたように、国交省と共同でやって、むしろ文科省の方がよりシミズな地質構造を反映しているというような記載もありますので、
0:38:33	これについては国交省を踏まえたが文科省についてはこの国交省を踏まえた上で、この長さを設定していると。
0:38:41	ということが読み取れるということで、これについては文科省を、
0:38:45	採用していると。
0:38:46	ということになります。
0:38:48	ですので、例えばこの国交省文科省以外の文献がより長く示してくれば、
0:38:55	根拠を、
0:38:56	データを確認した上に、0 になりますが、よりな断層長さが長いを採用するといつて、
0:39:03	という考え方になります。以上です。
0:39:07	あそうですかと。
0:39:09	規制庁の宮脇です。
0:39:12	国交省文科省以外の機関、
0:39:16	の断層トレース町、
0:39:19	の方が長くなるっていう、
0:39:21	ケースは他にはない。
0:39:25	北陸電力です。石田です。です。はい。少なくとも海域につきましては、国交省もしくは文科省が最も長く示していると。
0:39:33	ただ、1 ケースだけ異なるものがありまして、石川県西方沖の断層というものが 30 キロ以遠の方にございます。
0:39:41	これにつきまして補足資料のほうになりますけれども、
0:39:48	補足資料の、
0:39:50	ねえ。
0:39:52	2.5-7-2 ページ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:56	2.5-7-2 ページ。
0:40:04	この石川県西方沖の断層、
0:40:07	我々そう呼んでますけれども、これにつきましては、
0:40:11	まず国交省は、F51 と、一つの断層で示しております、
0:40:17	2A、
0:40:19	文科省の方は緑線で、浮遊 1F いう 2F 遊山というふうに記載しております。
0:40:26	それに、
0:40:28	さらに北東方に、より長く示しているのが、今ちょっとトレースでオレンジがかぶってますけれども、赤実線で書いてあるのが、石川県、
0:40:37	2012 ということで石川県が独自に設定した断層モデルになります
0:40:42	これについては、
0:40:43	文科省ですとか国交省、
0:40:46	と同じく、産総研のデータ等を用いて、
0:40:50	判断したというふうに文献には書かれていると。
0:40:53	ということで、この分、
0:40:57	この断層につきましては、石川県 2012 ということで国交省ですとか文科省よりも前に出された文献ではありますが、より長く示していると。
0:41:06	ということもあまして、こちらについてはその石川県 2012 の断層の長さを、を反映しまして、一番長い 65 キロ区間を評価している例になります。
0:41:16	海域につきましてはこの 1 例のみになります。以上です。
0:41:22	はい、わかりましたじゃあ。
0:41:24	もうちょっとどういうふうにして断層の端部を決定したのかという決定方針のところを少し補足説明を加えておいていただけないですか。
0:41:37	北陸電力石田です。承知しました。
0:41:40	はい。よろしく申し上げます。
0:41:42	他に個別の断層評価のところ
0:41:45	規制庁側から何か
0:42:03	規制庁の海田ですけど、私の方も、からも確認で今個別の断層、
0:42:11	というところで、今やってますけど
0:42:14	もっと前のところでちょっと確認したいと思いますところあります。
0:42:20	藤。
0:42:23	今回帰ってこられたところで、49 ページ
0:42:29	とかね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:30	ちょっとこの、今回、追加でされてきたんですけども、
0:42:40	これは、
0:42:42	例えば
0:42:47	下に監査記録が書いてあって、そこに赤い線が書いてある、破線で書いてある場合もあります。
0:42:56	その上の方に黒とか、
0:42:59	赤のコウ
0:43:01	とのマークとかこ
0:43:03	あるんですけど、
0:43:05	これ、
0:43:08	実線が書いてあってそれより上の、
0:43:11	地層にも
0:43:14	撓みなのか、ずれなのか。
0:43:16	ありますね左側のナンバー5 測線の方なんですけど、
0:43:23	これは、とは言いながらも
0:43:25	上で、黒のマークになってる。
0:43:29	で、この他、
0:43:31	記録からは変位変形が、
0:43:35	どこまでおよんでるっていう解釈してるかっていうのが、
0:43:39	ちょっとなかなか読み、
0:43:41	取れなくて、
0:43:43	この撓曲マークのところも赤なので、
0:43:46	B案までは行ってるという評価なんだと思うんですけど。
0:43:50	どっからどこまで、
0:43:53	たわんでるっていうのを評価。
0:43:56	きてるっていうのは、
0:43:57	図からはどういうふうに取り取ったらいいんでしょうか。
0:44:03	北陸電力1社です。
0:44:05	こちらにつきましては、
0:44:07	いわゆるデータ集のほうですねデータ集のほうでは、
0:44:12	いわゆる、どこからどこまでというところまでは、ちょっと読み、読み取れないというか、
0:44:19	読み取ればするんですけども、
0:44:22	ぱっと見てわかるような表現にはなっていません。こちらについては、赤くろう。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:28	後は青色ですね、青色で評議しておりますけれども、あくまで活動性があるかないかということがわかるレベル。
0:44:37	のことがわかるようになっております。
0:44:40	なので、赤い色になっただけのものにつきまして先ほど海田さんおっしゃられたように、少なくともB湾層より上、
0:44:46	に変位変形が認められるという意味で、赤色にしております。
0:44:52	ただ先ほど仰ってました、このナンバー5 測線の右側にいます黒い色ですね、この黒い色につきましては、確かに変位につきましては、この赤、赤実線の範囲になりますので、
0:45:03	強いOne層までしか認められないんですけども、変形がBOneソウノ、
0:45:10	規定までは認められると。ただこれに関しましてはちょっとB案層以上が、
0:45:16	層厚が薄すぎてわからないという意味で、黒い色になってはいますが、
0:45:21	クロイツに関しましてはB案層以上に、
0:45:24	判断はできないんですけども、
0:45:27	変位変形の可能性が否定できないという意味で、
0:45:30	我々の評価としては活動性があるという認識で、黒い色で記載しております。
0:45:35	今の事例では下書いておりませんが、これが青色というパターンがございまして、青色につきましては、
0:45:44	こういったふうに、
0:45:45	変位は確かに、赤実線赤点線で書かれておりますけれども、
0:45:49	その上に一部返金が見られる場合もありますけれども、その変形に関しましても、少なくともB案層まではおよんでいないと。
0:45:57	いうふうに判断した箇所については青色で書いてると。
0:46:00	いうふうな整理をしております、
0:46:04	具体的に例えばその青色のものがBII層まで変形してるのがBIII層まで変形してるのかということまでは、パッと見てわかるような状態にはなっ整理はされていないと。
0:46:15	いう状況です。
0:46:17	はい。本体のいわゆる各測線のこれは代表測線になりますけども代表測線の解釈の方には、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:27	どこまでが変位変形がおよんでいるかというところが書かれていると、 というような状況でございます。以上です。
0:46:35	はい。すみませんヨシダですが少しちょっと補足させていただきます。清 空でですねこの断面の記録で、今おっしゃるように、
0:46:44	縦の線、実線であろうが、破線であろうが、これは局所的にそのパター ンがですね、音波探査のパターンが、ずれがある、変位がある。
0:46:55	明らかにパターン境界が一つの線上で関わるところに、断層として、
0:47:01	この赤線を
0:47:03	書いております。
0:47:04	ただし皆さんおっしゃるようにこの図、図の図の2ですね、計15で言い ますと、
0:47:10	この点線の赤の上の方の、例えばその中でも少しその線の上でも、
0:47:15	パターンがパターンといいますか、1000層理面がずれますよね。
0:47:21	ある意味狭いところの変形パターン、千賀大江ながら、この変形ゾーン ですねそういったところは、
0:47:27	この線として書いておりません。原島イシタが申したように、
0:47:32	その変形が、我々この断層の評価で一番重要なB伴層に、
0:47:37	ビバンセよりも浅いところに届いていれば、この字幕を赤で書きますし、 平面図も赤で書くと。
0:47:46	そういうちょっとルールで、変形ですね、細かな微細な変形ってのは、こ の赤の線で表現はしておりません。
0:47:54	以上補足でした。
0:47:57	はい海田では、
0:48:00	状況ははい、わかりましたで今ちょうど図の2の方も確認しようかなと 思って、今ご説明あったんで、これもそうなんですね破線はB3層で止ま って、
0:48:11	るけど、上のマークを見ると赤なんで、これが
0:48:17	この図からは、
0:48:18	B案まで切れてるというふうに評価してるのか、まで切れてるって評価し てるかがちょっとわからないので、ちょっと確認しまし。
0:48:27	こういうのはあれなんですか、図からはわからないけど、何か一覧みた いなものがどっか別途あるっていうことな
0:48:38	はい北陸電力の野原です。
0:48:40	衛藤加来断層または撓曲につきまして、何層まで変位がある、そして何 層まで変形があるというのは個別には我々整理しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:50	で、まだ同大のような例ますし
0:48:54	この資料では、例えば、
0:48:57	76 ページ、これ例えば三崎断層体の活動性のところの記録の 1 例になります、
0:49:04	こういったところでは、並み走まで変位があるですとか変形があると認められるというのを、各個別のページで前回、今回明記をしております。
0:49:15	以上です。
0:49:17	赤井です。わかりましたヤノ木本なるところはそういう記載が資料に書いてあるということで、
0:49:25	わかりました。
0:49:29	資料では書いてあると
0:49:31	わかりました読み方のは、
0:49:34	一応そういった今コンセプトで書いてあるというところは確認でき、
0:49:41	ちょっと別のページでちょっと戻りますけれども、10 ページ。
0:49:46	これ、
0:49:48	コメント回答とは関係はないと思うんですけど、10 ページとか 11 ページ。
0:49:56	の、
0:49:57	話で、
0:50:03	ここですね、
0:50:05	MΔ 図で、
0:50:08	オノ断層の
0:50:11	どう、どういう関係、1 と、
0:50:13	マグニチュードの関係かというのを示してあります。
0:50:18	全部これマツダ式でマグニチュードを出したってということで書いてあるんですけど、
0:50:26	これ確かベッドの
0:50:29	地震動評価の方針、
0:50:33	方の、
0:50:34	では、
0:50:35	福浦断層みたいな短いのはマツダ式では、
0:50:40	上手くマグニチュードが出せないのでもっと別の
0:50:45	出し方をしていますっていう説明でし

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:47	でここ見ると福浦とかそれよりもっと短い断層も全部松田式を使ってマグニチュードを出しているというようなふうにも読めるんですけど、これは
0:50:59	以前別の
0:51:01	面談だったかヒアリングでの説明との、
0:51:05	関係でいうと、
0:51:08	どうなんでしょうかマグニチュードっていうのは松田式で出すというので、
0:51:12	よろしいんでしょうか
0:51:18	北陸電力一緒です。
0:51:21	まず一つ、このM△図のそもそもの扱いを、としましては、この同じ四角の1ポツ目に書いてありますけれども、
0:51:30	各断層による敷地の影響を簡易的に比較したいと。
0:51:34	我々としては、かなり膨大な断層量になりますので、どれが、いわゆる敷地へ影響及ぶ断層なのかということを、
0:51:46	一目でわかるようにという目的で、簡易的に比較するために、我々としてはこのM△図を作っていると。
0:51:53	ということがございまして、おっしゃられるように、短い断層につきましても、本来は適用外なのかもしれませんが、
0:52:01	あくまで参考としてやっていると。
0:52:04	で、例えば、先ほどおっしゃられました福浦断層とか、そういったものにつきましても、
0:52:09	フクダ断層につきましてもかなり距離が近すぎて適用できないというところもございまして、それもあくまで参考だと。
0:52:17	ただ近すぎる近傍断層につきましても、すべての断層、影響の大きさにかかわらず、ご説明させていただいていますので、これについては、適用がいい。
0:52:28	であっても説明をさせていただいていると。
0:52:31	いったところ、
0:52:33	の扱いで我々このM△図というものを作成、この少なくともこの地質地質構造に関しては、そういった意味合いでこのエムデルダ図を作っていると。
0:52:42	いう、
0:52:44	我々のスタンスという方針になります。以上です。
0:52:49	海田海田です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:51	わかりましたあくまで簡易的な比較ってということで、
0:52:56	本来マツダ式の範囲かどうか
0:52:58	ちょっと外れるようなものを使ってるということであれば資料によっていろいろその辺のコンセプトが違ってくるのは、
0:53:07	何か注釈がないと、わからないので、どっかに書いておいていただけますでしょうか。
0:53:16	北陸電力 1 社です。承知しました。
0:53:20	はい。規制庁甲斐です。じゃあ、よろしくお願いします。ちょっと
0:53:24	衛藤。
0:53:25	ページは飛ぶんですけど同じような話でえっと、
0:53:29	371 ページをお願いします。
0:53:39	これまた連動の話はそれは別途しますけれども、
0:53:44	さっきの別の資料との整合性という観点でいくと、
0:53:49	これ福浦断層の傾斜角は調査結果、僕からは 70 度だけど、
0:53:56	60° にします、60° で示しているというふうに書いて、
0:54:01	ただこれも近傍の地震動の説明の方では、
0:54:06	72 市することにしたっていうふうに思ってたんですけど、
0:54:12	これは
0:54:13	どっちが正になってるのかそれともこれも、
0:54:18	あくまで
0:54:19	趣旨によって使い分けられてるのかというところを説明していただきたいんですけど。
0:54:27	はい。北陸電力の野原です。
0:54:30	371 ページの記載につきましては、敷地近傍の審査会合のの充実構造の敷地近傍断層の審査会合の資料。
0:54:41	の記載をそのまま持ってきております。
0:54:44	一方、先日、地震動の方の資料の方につきましては、
0:54:51	70° としていく予定ということで、あちらにつきましてはまだ現在審議中といたしますか、
0:54:58	これから本格的な審議に入っていくと。
0:55:01	いうことになっております。
0:55:02	そういった意味で、我々としましては、
0:55:06	審査会合で出した今のところはこの 60 度というもので、この資料の方は記載をしております、
0:55:12	今後地震動の審査の中で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:14	70° にしていくということが、当社の方針としまして確定しましたら、
0:55:20	こちらの方の資料も併せていこうとは思っておりますが、
0:55:23	現状はまだその 70 度とする方針ですので、
0:55:27	確定していないということで、現在は、これまで出した
0:55:30	数値を、この資料では記載させていただいております。
0:55:34	以上です。
0:55:36	はい。海田です。
0:55:38	わかりましたあくまで今んところコウアノ。
0:55:41	審査で出てきてる最新の、
0:55:45	60 度を使ってるということで、そこわかりました。
0:55:49	今これが 60 だろうか 70 になろうか後の話の、
0:55:54	ここでの議論では、
0:55:56	そんなには
0:55:58	影響はなくて、
0:56:00	どっちに傾いてるかっていうのが、
0:56:02	大事な話だと思います。
0:56:05	その点は承知しまし。
0:56:10	はい。私からは個別のところは以上で、
0:56:20	規制庁の大井ですすいません。
0:56:22	先ほどアノ宮脇の方から、
0:56:24	また 24 ページのところ、
0:56:27	ちょっと説明を聞いてて、
0:56:30	この理解でいいのかなっていうのがちょっと
0:56:32	でない、どこに書かれてるのかなっての確認なんです、
0:56:36	今先ほどの御社からの説明で、
0:56:40	文科省、この、このケースで言うと、
0:56:43	国交省ほか 2014 より文科省他 2015 が、
0:56:47	詳細に検討されている。
0:56:50	のでとかそういうことはあったんですけどそれって、
0:56:54	ごめんなさいどっかの文章で書かれてるのかなっていうのをちょっと教えていただけますでしょうか。
0:57:01	北陸電力 1 社です。申し訳ありません今の、先ほどのその詳細な書か れているというものにつきましては当資料には、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:08	書かれておりません。文献の方にそういった記載はあるんですけども、ここには反映され、この資料には反映されておきませんので、それについてもわかるように、
0:57:20	記載を追加したいと思います。以上です。
0:57:24	わかりました先ほど宮木からあったように5分間修正されるということでしたので
0:57:29	その辺の確認でした。で、ちょっと1点教えていただきたいんですけどそれは
0:57:34	この24ページの能登半島東方沖の断層の図で、
0:57:39	この北東丹野、酷暑国交省ほかの
0:57:44	方で少し余計にこう出ている部分。
0:57:47	これが文科省他で、
0:57:49	2015では、
0:57:51	詳細に、
0:57:52	検討をし直してここはここには、これのこの断層はないっていうことを確認してるって趣旨でしょうか。
0:57:59	ちょっとすいません駒井ところで、
0:58:03	北陸電力一緒です。
0:58:05	ないということを確認したかどうかまではそこまでは読み取れませんが、少なくとも国交省ほかのいわゆる目的の違いですね。
0:58:16	国交省ほかは、まあさ、追加の連動評価の方にも書きましたけれども、いわゆる最大規模の津波評価をするために、
0:58:24	かなり大きくとっていると、文科省他の方は、より
0:58:31	細かな断層も含めて表現した。
0:58:36	ふうになっていると、例えばこの能登半島東方沖の断層につきましても、国交省ほかは最初から一面でエミていますけれども、文科省ほかにつきまとは、Tb5TBのJワソJを通じ欲しいと。
0:58:50	かなり断層を区分けして、より細かな地質構造を反映したモデルを作成していると。
0:58:56	ということが、実際本部にも書かれています。
0:59:00	で、これについては、それがわかるように今回資料を修正させていただきたいと思ひますけども、そういったことを踏まえますと、我々の地質構造の資料といたしましては、
0:59:10	よりその地質データを反映したモデルということで、文科省国を適用すべきということでこの文科省、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:18	計上すべきといいますか、そういったことで国交省ほかを反映した上で、文科省他が書かれているということがわかりますので、そういった意味でも、この文科省ほかは、
0:59:29	我々の評価、
0:59:30	と。
0:59:31	すべきではないかというふうに考えております。以上です。
0:59:36	はい。規制庁の大井です。ご回答ありがとうございました理解いたしました
0:59:42	国交省ほかの方が津波とかの、そういうぱくっとした
0:59:46	断層モデルの設定されたもの。
0:59:49	であり、
0:59:50	文科省川町室にちょっと特化したような詳細なものっていうことでそれも次回の資料にも反映していただくということで理解いたしました。
0:59:58	私からは以上です。
1:00:25	規制庁の宮脇
1:00:27	次追加の連動表カーについてコメントさせていただきます。
1:00:32	355 ページをご覧ください。
1:00:38	ここで事業者の連動評価のフローが示されているんですけども、
1:00:43	この中でですね 02 と 0。
1:00:47	余りに
1:00:51	ところで地下で収れんする位置関係ないと。
1:00:54	その右側の地下で収れんする位置関係にあるという、
1:00:58	この表現がですねちょっと違和感があるんですけどもこう書かれるとですね
1:01:04	そのしかです。
1:01:06	その断層面、二つの断層面が収斂してるということが、
1:01:13	既知であるとわかってるという
1:01:15	ふうなことを前提に書かれているように、
1:01:19	見えるんですよ。
1:01:20	でも実際はその関係っていうのは、
1:01:25	わからない。確認されてないわけですよ。
1:01:34	北陸電力の木村です。地下に収れんする位置関係にあるといいますのは、その断層トレースが併走するということと、あと地表での、
1:01:46	地表で確認したアノ断層の傾斜方向、
1:01:49	そういったデータから地下を推定すると、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:55	どちらかの断層に収れんすると。
1:01:58	いう関係にあるというふうに推定されるということでありまして、実際に、地下深部の状況を確認して収斂する状況を確認したというもの。
1:02:07	ではありませんで、あくまでそういう維持関係にあることから、
1:02:11	収斂すると推定したと。
1:02:14	いう、評価しているものになります。以上です。
1:02:18	だからそこは規制庁の宮脇ですここのところの表現なんですけども、
1:02:23	地下に向かって
1:02:28	これ確認、
1:02:30	その収斂するかどうかっていうのを、
1:02:32	確認できてないっていうのであればですね。
1:02:35	土地カラーに向かって近づく関係とかですね地下に向かう。
1:02:40	地下でこの離れていく関係っていう表現が適切じゃないかと思うんで、
1:02:45	いかがで。
1:02:49	沖電力の木村です。地下で収れんするのではなくて、地下に行くと、地下深部で近づく関係にある。
1:02:58	遠阪に遠ざかる関係にあるといった修正、表現の方が適切ということかと思しますので、確かにそのように、
1:03:09	した方が、誤解がないというふうに思いますので、そのように修正したいと思います。以上です。
1:03:16	はい。よろしく申し上げます。
1:03:19	要するにこの値カーに向かって近づいていく関係という、
1:03:26	ケースにおいて、地震調査委員会の評価事例に従って、
1:03:31	一つの起震断層として設定したというのが
1:03:35	事実なんじゃないかと思えます。衛藤。
1:03:38	そのことがちょっとわかるように、
1:03:42	このフローでわかるように記載していただきたいんで、
1:03:50	北陸電力秋葉です。承知いたしました。地震調査委員会の評価事例も踏まえて、そのように評価したことがわかるように、アノオオキ
1:04:01	フローを、そういった記載を
1:04:05	修正したいと思えます。以上です。
1:04:08	はい。よろしく願いいたします。
1:04:15	はい。
1:04:16	規制庁海田イセ私も
1:04:18	衛藤連動のこの考え方のところで、確認

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:22	します。352 ページを、
1:04:26	お願いします。
1:04:28	ここ、結構記載をコメントを踏まえて修正等されて、
1:04:35	いますので、
1:04:38	一つの起震断層として設定ということで
1:04:44	と、あと別の起震断層と設定ということで今分けてあるんですけども、
1:04:49	結局一つの起震断層として設定したっていうのは、
1:04:55	わかるんですけども、
1:04:59	一つの起震断層として、いわゆる連動させることによって、
1:05:04	長さが長くなって、地震規模が大きくなったものと、
1:05:09	一つにしたけども、
1:05:12	変わらなかったものっていうのはこの赤字のところに、
1:05:16	多分 2 種類まざってると思うんですけども、それは
1:05:20	どういうふうにかっから見なければ、これいいんでしょうか。
1:05:24	ちょっと日
1:05:25	を、今、そのあたりちょっと説明お願いしたいんですけど
1:05:32	北陸電力の木村です。
1:05:35	一つの
1:05:36	地震断層として設定と、赤文字で書いてある断層につきましてですけども、この資料上では、2 種類ありまして、
1:05:48	複数の断層が、
1:05:52	繋がって連続して繋がって長さが長くなるもの。
1:05:57	例えばサロベツ断層体ですとか、魚津断層体ですとか、モリモトガシ断層体ですとか複数の断層が、
1:06:08	繋がって長さの伸びたもの。
1:06:12	というものもありますし、
1:06:16	それ以外に、主断層、
1:06:19	そして、
1:06:21	一つの断層があってその横に副断層として、短い断層があるといった事例。
1:06:30	例えば、右の表の
1:06:34	下から 2 番目の方にあります、万年山くえん平山断層体ですとか、
1:06:42	長尾断層体、アリタ木断層と長尾断層ですとかこういった事例がございます

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:49	この二つの 2 種類の事例あるんですけども、それがこの表で、ぱっと見、
1:06:56	どちらなのか、長さが伸びたのがどう、どのケースで長さが変わらなかったのがどのケースかっていうのが、ちょっとこの表ではわかるようにはなっておりませんので、
1:07:07	ちょっとその違いもわかるように、
1:07:09	この表の方、
1:07:12	工夫して記載したいというふうに思います。
1:07:16	以上です。
1:07:18	はい。海田です。わかりましたじゃよろしく申し上げますこれ文言はこれでこういうふう書いてあるん。
1:07:26	元文献に書いてあるんであれば、こういった形でもいいと思うんですけど、ここの指摘の趣旨というのは結局、
1:07:34	前は連動というような、
1:07:36	表現だったかな。
1:07:39	年度っていうか一つの起震断層としたのに、結局は、規模は変わってないん。
1:07:46	ガコウんこれ変わってないんですよっていうのがわかるように、
1:07:51	いただきたいというところも、コメントの趣旨の一つだったので、それは変わったものが変わらなかったものかっていうのはちょっとわかるように、何か工夫をしていただきたいと。
1:08:02	よろしくお願
1:08:03	それとこの表でもう一つ確認なんですけど上の箱書きの、
1:08:09	丸で、
1:08:11	今の話と関係あるんですけども、
1:08:15	主断層のみで断層モデルを作成していることが確認できましたっていう、
1:08:20	※の 5 と 6 というところが、
1:08:24	あって 5 と 6 はそうですと。
1:08:26	でも 4 も、
1:08:31	そういう位置付けなのかなと思っ
1:08:34	たんですけども。
1:08:36	これは、※4。
1:08:39	と※5 っていうのは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:44	地震本部でモデルを示しているか示していないかっていうところの違いっていう、そういうことでしょうか。
1:08:51	北陸電力の木場です。※4 のアノフジカワ加古断層体につきましては、今ほど海田さんおっしゃった通りでございまして、地震本部が、
1:09:01	この
1:09:01	フジカワ加工断層体の
1:09:06	二つあります、後列統制成立。
1:09:10	この二つの断層を、
1:09:14	一つの起震断層としているんですけどもその断層モデルを示していないということから、
1:09:21	主断層のみで、断層モデルを作成しているという、
1:09:25	ものを、
1:09:27	ニワ、1、
1:09:29	地震調査委員会が主断層のみで、断層モデルを作成しているかどうかというところは文献からは読み取れませんでしたので、ここでは※4 は記載しませんでした。以上です。
1:09:44	規制庁海田です。
1:09:46	実施本部では示していないってところそれはおそらくその通りなんですけども、
1:09:52	ここは地震本部だからってということでそうなんですけども、別途何か国の機関とかで、
1:09:59	そういうことものを示してるのであれば、ここ、何か補足。
1:10:04	といたしますか、そういった情報もあった方が、
1:10:07	より
1:10:10	説得力あるというか、思うんですけども。
1:10:13	そこはいかがですか。
1:10:16	北陸電力 1 社です。
1:10:18	この富士川河口断層体につきましては、先ほどキムラ言いましたように地震調査委員会の方では断層モデル示されていないんですけども、
1:10:26	これも文科省ですね文科省の方で重点観測の対象となっていて、そちらでは、断層モデル示されて、
1:10:34	いまして、そういったところでは 1 枚目で見ているというところありますので、そういったところをちょっと参考に、
1:10:43	どういうふうに行っているかというところは、このフジカワコウ断層体については追加したいと思います。以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:50	はい。海田です。そうですね文科省、
1:10:53	と東西地震研のアノ。
1:10:56	今おっしゃった報告書で、1枚他のが示してあったかと思imasuので、 今、今回いろんな文献の中で文科省、
1:11:06	他みたいになっていうのと同じような、何か
1:11:10	著者というか、
1:11:11	発行者も同じようなもんなので、
1:11:13	そういった情報も取り入れて要は4も5も、
1:11:17	国の機関等で1枚板で示してるんだっていうのがわかるように、
1:11:23	お願いしたいと思ひ
1:11:24	よろしくお願ひし
1:11:27	私から以上です。
1:11:37	規制庁の大井です。すいませんちょっと今の点、
1:11:40	教えていただきたいんですけど。
1:11:43	この352ページの国の評価の連動の考え、あれと、
1:11:50	355ページの、
1:11:54	御社の連動評価のこのフローっていうのは、
1:11:58	リンクしてるんですか。
1:12:01	つまり、
1:12:02	例えば、
1:12:09	例えば一つの起震断層で地下に収れんすると推定っていう352ページの
1:12:15	事例っていうのは、⑤に、
1:12:17	大体当たるかなと私は思ひ。
1:12:20	ですけど一方でその連動、この352ページの赤字の部分には、一方で、
1:12:25	355ページの⑥になるようなものもあるということていい。
1:12:30	うん。これはちょっとオカ読み取れてないかもしれないんですけどちょっと教えていただけないでしょうか。
1:12:37	北陸電力の木村です。352ページと355ページの関係ですけども、
1:12:45	355ページの右の方の注釈。
1:12:50	波線ん破線で囲った注釈のところに、参考とした国による評価っていう、
1:12:57	ところの説明があります。
1:13:00	ここの※2のところを、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:05	見てみていただきますと、地震調査委員会は、断層長さや断層変位速度から、平均変位速度から主断層が断層の関係にあると評価したもののについては主断層のみで断層モデルを作成していると。
1:13:17	352 ページに書いてあったことなんですけども、
1:13:20	この※2 というのが、このフロー上のどこに反映されているかっていう、
1:13:25	と言いますと、
1:13:28	⑦って書いてあるところの下の、
1:13:30	緑四角のところ、ここに※2 とあります。
1:13:34	つまり、主断層副断層の関係であると判断したものについては、
1:13:41	泉が主断層であるか検討するんですけども、
1:13:45	主断層であるか判断できる場合は、主断層のみを断層モデルとして設定すると。
1:13:51	で、判断できない場合は、それぞれが主断層となるケースを個別に断層モデルとして設定すると。
1:13:58	この考え方の方に、
1:14:03	リンクしているというところで、このような示し方をしております。
1:14:11	以上です。
1:14:14	規制庁の大井です。すいません、注釈のところは少し見落としてましたが、
1:14:19	であれば⑤のケースの子が下に行っていって⑦の検討の上でやってるという説明でしたけど
1:14:29	注釈 1 の方もなんか 352 ページと引っかかってて要するに、
1:14:33	①のところの、
1:14:35	355 ページの左側の
1:14:38	ところに注釈 1 がありますけど、
1:14:40	この検討を、
1:14:43	もう 352 ページと連アノリンクはしてるっていう。
1:14:47	ことですよ。
1:14:49	北陸電力の木村です。
1:14:52	そうですね
1:14:54	※1 と書かれている、
1:14:57	同時活動の可能性の検討、これが 352 と 353 ページで、事例、
1:15:05	検討を行った結果を踏まえたものになりまして、どうい
1:15:12	項目を確認して、断層を一つの同時活動を考慮するのかということの考え方。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:22	352 と 353 の考え方を踏まえて、こちらの
1:15:30	355—※次の、同時活動の可能性の検討を行っている。
1:15:35	こちらの方が、
1:15:40	主に地震調査委員会とか国交省の考え方を、
1:15:45	反映したところになります。
1:15:52	大部分の断層は、こちらの方の断層トレースが連動しないというケースになりまして主断層主断層の関係として、同時活動の可能性の検討に行きますので、
1:16:04	こちらの方がメインのルートで、
1:16:08	この同時活動の可能性の検討にステップ 2 の考え方を踏まえた
1:16:12	検討を行っているというところでございます。以上です。
1:16:20	はい。規制庁の大井です。
1:16:22	はい、わかりました。
1:16:25	はい、理解できました。
1:16:28	私からは以上です。
1:16:35	規制庁の宮脇です。
1:16:37	それでは、接近して分布する断層の連動の検討結果についてコメントさせていただきます。最初にですね、
1:16:46	362 ページ
1:16:49	とこれは、
1:16:51	福村断層と兜岩断層
1:16:53	の連動の検討結果の
1:16:58	内容なんですけども、この連動検討の評価の
1:17:02	黄色の枠のところです
1:17:04	これ先ほど私が、
1:17:06	フローで
1:17:08	修正をお願いした内容に関わる
1:17:12	ところなんですけども、
1:17:14	ここで
1:17:17	と福村断層と兜岩断層は閉併走して分布し、地下で収れんする位置関係にあることから主断層の副断層の関係にあると判断されるという
1:17:28	けどもここは
1:17:30	地下に近づいていく関係にあって地震調査委員会の事例に従って主断層が断層、
1:17:38	にあると判断したということがわかるような記載ぶり

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:42	だけないでしょうか。
1:17:47	沖電力の木村です。承知いたしました。こちらの、
1:17:51	地下に収れんする位置関係にあるという表現を、地下に地下で近づく。
1:17:58	関係にあると。
1:18:00	ので、地震調査委員会の事例を踏まえると主断層フタ等の関係があるというふうな記載に修正したいと思います。以上です。
1:18:07	はい。よろしくお願いいたします。
1:18:10	それから、
1:18:14	371 ページ
1:18:15	ね。
1:18:17	これは、先ほど断層の傾斜角度について、海田の方から少しコメントがあったんですけども、
1:18:24	これに、
1:18:25	これとに関連してですね基盤城面の
1:18:31	標高差ですね確か地下構造の資料に
1:18:38	K-13.6 統計の
1:18:41	8.6 コウとのは
1:18:44	比較がしてあって基盤城面の高さが 100 メートル以上異なるという記載があったと思うんです
1:18:52	これについては現状、
1:18:55	福浦断層の関係とか、
1:19:00	どのように今考え、
1:19:09	北陸電力一緒です。
1:19:11	こちらにつきましては地下構造の方で、正式にコメント回答させていただく予定になっておりますが、
1:19:17	花崗岩状面、
1:19:19	こちらにつきましては、今、180、大深度ボーリング、
1:19:25	3 で大体 180 メーターほどの高度差がございます。
1:19:30	実際、今、371 ページにある、花崗岩状面の反射断面を見ましても、大体 200 メーター近くの高度差があると。
1:19:40	ただこれにつきましては、実際この大深度ボーリング見ましても、そんなに 100 メーター、変形させるような断層が見られないということもありますし、
1:19:52	これについては重力異常分布、
1:19:54	についても、この資料でいきますと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:58	例えば 43 ページですね。
1:20:00	43 ページの方に、ちょっと、
1:20:06	広い重力分布になりますけれども、こういったところでも、敷地のところには、
1:20:12	いわゆる断層が想定されるような直線的な重力異常急変部というものは見られないと。
1:20:19	いうところがございます。
1:20:21	さらに年代的なことを考えましても、花崗岩がおそらくできたのは、おそらく 1.4 億年。
1:20:30	前後。
1:20:31	少なくとも 1.4 億年、その上に乗っています。新原層ですとか、ベッショだけ安山岩類というのは、2500 万年ですとか、2000 万年前後。
1:20:43	の年代。
1:20:45	が推定されます。
1:20:47	そうしますとおそらく 1 億年近くこの花崗岩状面というものは、風化を受けていると。
1:20:52	いうことを、うん。考えますと、おそらく風化によって、
1:20:57	削られてたものではないかというふうに我々考えております。
1:21:02	実際、ここだけではなくて敷地周辺の能登半島のところを見ましても、こういった花崗岩の高度差というものは、幾つか見られますので、こういったことも、今、この資料には書かれておりませんが地下構造の方では、
1:21:18	そういったところで、おそらく風化による凹凸であろうというふうに考えています。
1:21:24	というような π とをする予定でございます。
1:21:26	これにつきましても、
1:21:30	いわゆるこの反射面で見える化護岸上面につきましても、同様に風化等によって、侵食されたものであるというふうに我々考えておりまして断層による、
1:21:40	例えばフクダ断層によって持ち上げられたと。
1:21:42	いうものではないのではないかというふうに我々考えています。以上です。
1:21:48	はい、承知しました。
1:21:51	窓、
1:21:52	この資料については直接関係するわけではないので

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:58	地下構造の資料の方で、その詳細を記載していただければと思います。
1:22:06	続きますてです。
1:22:09	372 ページ。
1:22:12	2、
1:22:13	この一番上のは、
1:22:15	箱書きの②のところですね、
1:22:20	この平均変位速度のことが書いてあるんですけども、トレイン
1:22:24	福浦断層全体の平均変位速度は、
1:22:27	さらに大きい可能性
1:22:29	トレンチで求めた辺りにも大きい可能性があるためと
1:22:33	書いて、
1:22:34	これ何か具体的な何か商工っていうか、はあるんですか。
1:22:40	帯電力の木村です。
1:22:42	こちら、フクダ断層のトレンチなんですけども、フクダ断層の
1:22:49	全体のトレース
1:22:51	が、3、
1:22:56	370 ページ。
1:22:58	見ていただきますと、フクダ断層っていうのは南の方で、
1:23:04	東側と西側の蓋、二条に分かれておりまして、
1:23:08	この
1:23:09	津川ダム右岸トレンチというのが、この二条に分かれたうちの西側を対象にして、トレンチを掘削して、変位量を確認したものになります。
1:23:22	ですので、
1:23:23	福浦断層全体の、
1:23:26	変位量を確認できていない可能性がありまして、東側にもアノ断層があるということから、
1:23:33	ウダ断層全体の平均変位速度はさらに大きい可能性があるというふうに考えております。
1:23:42	このことにつきまして、372 ページの、
1:23:48	活動履歴活動度っていう書いてある箱はこの下の方に白い四角で、なお、
1:23:56	上記の活動履歴、活動度は、浦断層が 2 本併走する区間における、
1:24:01	浦断層西側での調査に基づくため、フクダ断層全体の活動履歴活動を示せない可能性もあるというふうに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:10	記載しております。以上です。
1:24:14	なお書きのところに記載されてるわけですね。
1:24:17	ちょっとわかりづらいんだ。上の、箱書きの
1:24:22	ところにもちょっと簡単に
1:24:24	記載しておいていただけない。
1:24:28	堀井電力キムラです。承知いたしました。上の箱の方にも、追記いたします。
1:24:34	はい。よろしく申し上げます。
1:24:36	福浦と兜岩について何か規制庁カガワ
1:24:39	コメントあり。
1:24:43	規制庁海田です 374 ページを
1:24:48	確認なんですけど、
1:24:51	ここ上の箱書きも、下の図も、
1:24:55	どっちかがどっちかを切ってる、切り合い関係とかってという言葉もあったりして、図も、切ってるかのような
1:25:03	そういうふうな書き方になってますけど、
1:25:08	これって本当にどっちかが切ってるかどうかって言うのもわからないし、
1:25:17	福の方は、
1:25:18	ひょっとしたらそこまで持たこの交差点のところまで、
1:25:23	達してなくて、もしバックスラストみたいなもんだとか副断層だったら、地表付近だけで終わってる可能性もあると思うんですね。で、なので、
1:25:33	ここは何かあたかもコウ図を見ると、もう切り合い関係だけみたいなのふうには見えてしまうので、
1:25:40	何かこう線の種類を変えるとか、
1:25:46	工夫できないんですかね。あくまでどっちが集荷服かわかんないっていう。
1:25:51	だけのことだと思えますんで切り合い関係まで判断してるんでなければ、
1:25:56	そういうふうな、
1:25:58	ふうにもと、
1:25:59	切り合い関係にしか読み取れないような図じゃなくてちょっと工夫をお願いしたいんですけど。
1:26:04	いかがでしょ
1:26:07	目撃年齢のキムラです。
1:26:10	こちらの図の方、確かにフクダ断層、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:14	角田八木断層が切り切られの関係に見えますので、主断層ワダ断層であれば必ずしも
1:26:24	会合している必要はなくて、どちらかの断層が地下まで行っていないという可能性もありますので、
1:26:30	そういった可能性も考えてちょっと、
1:26:33	表現の方、適正化したいと思います。以上です。
1:26:39	はい、じゃあ、よろしくお願いします。私から以上です。
1:26:48	規制庁の宮脇です。
1:26:50	それでは次に 409 ページの、
1:26:54	すいません。これは海士岬沖断層隊と笹波沖断層ダイウ部の連動の評価結果。
1:27:01	ない。
1:27:11	次のページを見ていただいたんですね、410 ページですね。
1:27:19	今回
1:27:21	海士岬沖断層隊
1:27:23	の北部を、
1:27:26	雨森副断層体の一部というふうに、
1:27:29	したのは、これはこれでいいと思うんですけども、
1:27:32	この言動させるときの考え方ですね、
1:27:37	もともとこの笹波沖断層体っていうのは事業者はその西部と東部をですね、一つの断層体であるというふうに、
1:27:46	評価してあったんですけども、
1:27:48	ところが連動の検討に
1:27:52	置いてですねそれを切り離して東部鳥栖東部だけを連動の検討に、
1:27:59	してると。
1:28:00	だから、
1:28:01	はどのように、
1:28:03	考えている。
1:28:07	北陸電力の 1 社です。
1:28:09	我々、まず連動の考え方としましては、やはり人規模が、
1:28:15	神戸、断層長さ等が大きくなって地震規模が大きくなると。
1:28:20	いうところがいわゆる連動の検討対象となってくるものだというふうに我々考えています。
1:28:25	実際笹波沖断層の藤、全長ですね、全長と海士岬沖断層隊の連動というものを考えた場合に、いわゆる、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:36	PTのような、
1:28:38	形状になってきまして、いわゆる断層が、
1:28:44	2枚ですね。
1:28:46	イマイオクことになるという。我々、先ほどの地震調査委員会等の考え方にに基づきますとやはり、こういったことを考える時はやはり主断層副断層的な考え方になってくると。
1:28:59	ということでやはり1枚面で多くということを考え、
1:29:03	パパになってくるであろうと、実際一面で考えた場合はやはり東部と、
1:29:08	海士岬沖断層体がある程度、直線上に乗ってくると。
1:29:14	いうところもありまして、海士岬沖断層隊と定める断層対東部を評価すれば問題ないだろうというふうに考えて、この連動ケースを考えております。以上です。
1:29:27	もう、もともとその事業者
1:29:32	東部と西部の一連の断層体っていうふうに、
1:29:36	示されているんで、
1:29:39	だから、それを切り離し、
1:29:41	だという考え方は、きちっと整理して示していただきたいと思いますが、いかがで
1:29:49	北陸電力石田です。承知しました。そうしましたら、この連動のケースを選定したときの考え方ですね、について、追記したいと思います。以上です。
1:30:01	はい。お願いします。
1:30:03	それとですね
1:30:06	断層長のことなんですけども、
1:30:10	雨水、オオキ断層体と笹波沖断層体ってのは
1:30:15	屈曲してますよね。
1:30:17	この図では直線的に、
1:30:22	まず断層長が図られているという
1:30:24	ことでよろしいんでしょうか。それとも、これは
1:30:27	断層沿いに計測したものの。
1:30:30	が34.2キロ。
1:30:35	北陸電力石田です。こちらにつきましては笹波沖断層ダイトウ部の北東丹から海士岬沖断層隊のナースセンターを直線的に結んだ断層の長さを算出しております。以上です。
1:30:49	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:50	町長。
1:30:51	しました。はい。
1:30:53	私からは以上になり、
1:30:58	規制庁海田です。私は今
1:31:02	宮木の方から最初に質問した確認したところで、それに関連して
1:31:10	私も確認なんですけれども、
1:31:13	これ、今回連動、この先の話かもしれないんですけど、
1:31:19	連動をしますとなったときに、
1:31:22	海士岬
1:31:24	等、浅見東部っていう、
1:31:27	の断層ができて、
1:31:29	笹波沖の東部西部っていう断層も、
1:31:33	二つ、5、
1:31:35	二通りこうやる。
1:31:37	できるっていうそんなイメージなんですか地震動のモデルをくっと、
1:31:42	イメージなんですけど、
1:31:46	はい。北陸電力の野原です。今ほど種田さんが言われた通り、
1:31:50	地震動評価におきましては、笹波、東部、西部、
1:31:55	と、笹波東部と海士岬沖断層体、この二つの連動をそれぞれ考慮したモデルを設定したいと考えております。
1:32:04	以上です。
1:32:06	はい。回答ですがわかりました。
1:32:09	そうそうした時に、
1:32:13	355 ページに戻っていただいて、
1:32:18	何かこの話と、
1:32:20	どう違うのかっていうのがわからなかったんですけど、
1:32:26	これ右側で、
1:32:30	要は二つの断層っていうのは、
1:32:33	地下で近づく関係にあって、
1:32:36	そのうち、AもBも同じ傾斜だけど近づいていくという、
1:32:42	関係にある。
1:32:44	ものだったかなと思ってまして。
1:32:47	結局、それは
1:32:49	どっちが主禍福かわかんないから、
1:32:53	両方やりますっていう。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:55	ここにあるんですけど、
1:32:57	要はてTGなのかは維持みたいなのもあるけど、
1:33:01	その一部分はうん。
1:33:05	何て言いますかね。
1:33:07	そのどっち側がシュシュシュのラインにYージンノ種のラインになるかわかんないから、それぞれをモデル化しますっていうのと、
1:33:15	似てるような気もしたんですけど、これは
1:33:20	それとは違って
1:33:24	あくまで
1:33:27	1回ここそこの、
1:33:28	東部西部で1回切った上で
1:33:31	東部との連動をするという、
1:33:34	ことになる。
1:33:35	今そういう説明だと思うんですけども、この図とはもう全く別の話になってきてるっていうことで、
1:33:42	ですかね。そこ確認で、
1:33:45	はい。北陸電力の野原です。
1:33:47	衛藤 410 ページで言います笹波東部、笹波西部です海士岬沖断層体、この三つの断層が対象に挙がってると思いますが、
1:33:57	この三つの同時活動といいますか、連動を、
1:34:00	考えるときに、
1:34:02	衛藤先ほどから出ております笹波東部西部の連動、これがまず一つの断層モデル。
1:34:08	そしてもう一つが笹波東部とアノ三崎の断層モデル。
1:34:12	この二つの断層モデルを考えますと、
1:34:15	それを 355 ページのフロー図に当てはめると、
1:34:18	今ほどか飯田さんがおっしゃった通り、
1:34:21	この右側の地下、地下で近づく。
1:34:28	というふうに解釈しております。
1:34:30	両方、断層傾斜角としましては、 60° 、もしくは 60° というふうに考えておりますが、そこら辺の不確かさもございますし、走向も必ずしも一致するものではないと。
1:34:42	そういったことから、この笹波東部西部という断層と、
1:34:47	笹波東部海士岬という断層が地下に近づく関係にあるというふうに、江藤解釈しまして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:55	そしてこの 355 ページのフローでいきますと、この一番右側のケース、
1:35:00	それぞれが主断層となるケースを江藤断層モデルとして設定、これに該当するのではないかというふうに解釈、我々判断しております。
1:35:09	以上です。
1:35:12	はい、規制庁海田です。
1:35:15	そうですねそういうふうな説明、先ほどの積雪さっきの説明を聞いてるとこのルートに、
1:35:22	当てはまるなというふうに思ったけどもそういった説明が後ろの方でなかったんでちょっと確認させていただきました。いずれにしろ、
1:35:32	両方やるという予定だということは
1:35:37	わかりました
1:35:41	ここの二つの関係ってもう近づいていく関係に、
1:35:45	あるというかそういうふうに、
1:35:47	推定されるじゃなくて推定なんかもしんないですけどサトウ他の断面で、
1:35:53	ラインBでしたっけ、まさに何かこういった図柄も出てたんで、
1:35:58	近づいていくのはもう間違いない。
1:36:01	ところで、
1:36:05	今んところ、そういうもの、両方パターンやるっていうところはわかりました。確認できました。はい。以上で、
1:37:12	規制庁の宮脇です。
1:37:13	じゃあ、次に行きます。
1:37:17	466 ページのですね、この笹波沖断層泰然町と、能登半島北岸駅、
1:37:25	断層体の連動について、
1:37:35	この
1:37:36	表ですね、この表 2 の記載項目について少し、
1:37:41	確認させていただきたいと思います。
1:37:45	まずですね、
1:37:53	この傾斜方向について
1:38:00	記載があるんですけども、
1:38:03	この笹波沖断層泰然町と、
1:38:07	能登半島、
1:38:08	北部沿岸域断層体については、その傾斜方向は異なるというふうに
1:38:15	記載されているんですけども、
1:38:17	これ見ると両方とも何棟ないしは麻痺、
1:38:23	ヒガシなし、担当で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:25	そんなに大きく異なっているように、傾斜方向については、見えないんですけども、
1:38:31	このように記載され、
1:38:33	た理由って何かある。
1:38:37	クリック電力一緒です。
1:38:39	469 ページの方に、今のズー。
1:38:46	をつけさせていただいておりますけれども、
1:38:49	おっしゃる通り、
1:38:51	笹波沖断層体、この辺の断層が、いずれも南東傾斜、大局的には南東傾斜の 60° で傾斜しているというのが、
1:39:00	この辺の大きな特徴ではございます。
1:39:03	ただしですね、この笹野ユキ断層田井東部と猿谷オオキセグメントの境界部付近を右下の方にちょっと拡大して、載せておりますけれども、
1:39:17	これ以前から、
1:39:19	説明させていただいておりますけれども猿山セグメントの、
1:39:22	南西付近というものは、屈曲しております、かなりN-Sに近い方向まで屈曲していると。
1:39:31	ということで、この何西端付近が、最も笹波断層ダイトウ部に近づきますけれども、
1:39:37	このもう佐々行木断層田井東部に近づくところではもうほぼN-S方向になってきまして、傾斜としてはかなり東傾斜に近づいてくると。
1:39:47	そう考えますと笹並木断層ダイトウ部は、いわゆるミナミの方に、
1:39:52	経営さしていきますけれども、
1:39:56	笹山セグメントのまなん西端付近は、どちらかという、東側、右側に深くなっていくと。そう考えますと、地表トレースではかなり近いですがけれども、
1:40:08	地下深部に行くに従って、この土地隣接する位置では、離れていく方向になっているのではないかとというふうにはちょっと推定されると。
1:40:17	そういった意味でこの両セグメントの境界付近の経営者方が異なるということ、この一覧表に書かせていただいております。以上です。
1:40:27	はい。わかります。ちょっと
1:40:31	この記載だとか、
1:40:35	簡潔すぎてちょっとわからないので、何か、
1:40:39	※書きか何かでちょっと追記
1:40:42	しておいていただけないで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:45	北陸電力 1 社です。承知しました。今ほどの説明、
1:40:49	がわかるようにもうちょっと詳しく書きたいと思います。以上です。
1:41:00	規制庁甲斐です私もちょうとそこで確認なんですけど。
1:41:05	赤の、
1:41:06	あと、その今のコウセグメント化の状況というところは境界部付近のつ
1:41:13	ていうところで、
1:41:20	着目されてんですけど、他のやつは、他の部分は、
1:41:22	えっ。
1:41:22	全体傾向を見てるとかわけじゃなくて、全体傾向も境界部付近も傾斜方
1:41:30	向が同じだということなんですかね。それとも、
1:41:32	境界部付近は、
1:41:36	他の部分というのは例えば猿山輪島すず
1:41:39	六甲の間、
1:41:40	は、
1:41:44	境界部付近も全部同じだという
1:41:50	ところは特に書いてないんで、境界部付近なのか全体傾向とか、
1:41:54	そこをちょっと確認したかったんで、
1:41:55	北陸電力社です。
1:42:11	基本的には全体傾向として考えておりますけれども、まず、端部付近が
1:42:25	局所的に曲がっている部分というのは、今のこの猿山オオキセグメント
1:42:28	以外で言いますと、六甲規制、六甲セグメントスズキセグメントのところ
1:42:32	になります。
1:42:32	ただこの鈴置セグメントと六甲セグメントに関しましては、同じように屈曲
1:42:43	しているというところがございますので、これについては、いわゆる境界
1:42:54	部付近も、全体傾向も同じ。
1:42:58	傾向を示している、傾斜方向として同じ傾向を示すと。
	一方笹波沖断層とイトウ部の
	団西端付近につきましても、若干屈曲はしておりますけれども、先ほど
	の猿山オオキセグメントですとか六方セグメントほどの曲ではないと。
	ということがございまして、笹波沖断層田井東部西部間に関しましてはほ
	ぼ、傾斜方向については同じであるというふうに考えて、
	方が同じというふうな、表に記載させていただいております。
	今、この猿山セグメントと笹田ミキ東部につきましても、もう少し詳細に
	記載するというふうに、先ほど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:08	説明させていただきましたので、今ほどの六甲セグメントと、スズキセグメントですとか笹波断層体の東部西部、
1:43:16	につきましても、と同じように、所もう少し詳細な説明を加えたいと思います。以上です。
1:43:24	海田です。はい、わかりました。
1:43:27	ちょっと図も表もすごい、だんだん数
1:43:31	文字数も大きくなって、多くなってくるんで、どこまで書き込めるか。
1:43:36	というのはちょっと、
1:43:38	そこは検討いただきたいんですけど、こういったところ
1:43:42	書き書きぶりは同じようにしていただいて片や、境界部だけ見えて片や
1:43:49	全体傾向だけ見てるっていうふうなふうに、誤解を招かないように
1:43:56	細部りっていうのは統一をしていただきたいので、よろしくお願いします。はい。
1:44:01	ここの計算ところ私以上です。
1:44:07	はい。規制庁の宮脇です。引き続きこの表についてちょっとコメントさせていただきます。
1:44:13	今カイザー3 海田から
1:44:16	コメントあった通りですね、この直線区間、
1:44:21	直線上に並列区間を伴って分布するという記載があるんですけども、
1:44:26	これについてもですね、土岐さ
1:44:29	されている項目と記載されてない項目があるんで、
1:44:34	記載されるんでしたら
1:44:38	並列化を伴って分布するのかもしれないのかって
1:44:41	ことを統一的に記載していただきたいと。
1:44:45	思います。
1:44:47	この中でですね、
1:44:50	笹波沖断層田井東部と、
1:44:54	能登半島北部沿岸域断層たEについては、
1:44:58	この
1:44:59	並列化が伴って分布するかどうかって
1:45:02	記載されていないんですけどもこれは
1:45:08	この笹波沖断層ダイトウ部っていうのは陸域までコウ
1:45:12	延長するように、事業者は示しているので、
1:45:17	もし書くとすれば、これは並列区間を伴って分布するという事によろしいんで

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:26	北陸電力 1 社です。おっしゃられるように、陸域まで伸びておりますので、総区間としては伴っていると。ただし、この能登半島北部縁起断層タイプの違いとしましては、やはり直線上に位置しているかどうかというのが一つ大きなポイント。
1:45:42	かなというふうに我々思っています。
1:45:44	そういう意味で、黒字で今離隔距離もあわせて書かせていただいておりますけれども、
1:45:52	他の能登半島北部沿岸域断層体につきましては、2 キロとか、1.5 キロ、
1:45:59	土肥諏訪島とスズエの間はほとんど離隔距離ないと。
1:46:03	いうふうな書き方を書かせていただいています。
1:46:05	笹沼ウエキ断層ダイトウ部とされAMAGIセグメントに関しましても、離隔距離は、一番近接する位置という意味では 2 キロというふうに書かせていただいておりますけれども、直線的な区間と言えば、7.5 キロほどの離隔がございますので、
1:46:20	そういった意味では直線状には閉塞感を伴っていないと。
1:46:24	いうふうに我々考えています。
1:46:26	ですのでちょっとここら辺の書き方につきましては、また、検討させていただきたいと思っておりますけれども、閉塞感少なくとも伴っていますが、直線状には位置していないということで、
1:46:36	他の
1:46:38	セグメント間の
1:46:39	ものに関しましても統一的な書き方を検討したいと思います。以上です。
1:46:45	はい、じゃあ、よろしく願いいたします。
1:46:50	とそれから、
1:46:52	背斜構造の連続性について記載されてるんですけども、
1:46:58	笹波沖断層ダイトウと猿山沖セグメントを 2、背斜構造がないという、
1:47:06	根拠は、
1:47:07	ここ 458 ページ。
1:47:21	458 ページに、
1:47:24	断層トレース横断スルーを、断面は 1 断面示されているんですけども、
1:47:31	この周辺で
1:47:33	この近傍で反射構造がないというふうな
1:47:37	断面を示すも複数示すことはできないのでしょうか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:52	北陸電力 1 社です。
1:47:55	ちょっと確認はしますが、
1:47:58	今この
1:48:00	猿山オオキセグメントと笹波沖断層体の間を直接確認できるもの。
1:48:07	でいいますと、この 2 測線、
1:48:10	になってきまして、
1:48:13	そうですねもう少しちょっと離れた位置であれば、まだ測線がありますので確認できますし、
1:48:19	陸の方につきましてちょっと確認はしてみますけれども、
1:48:24	そういった意味でちょっと背斜構造の有無がもう少し強化できないかという趣旨かと思しますので、
1:48:30	そういった意味でちょっと確認をさせていただきたいと思います。以上です。
1:48:37	規制庁の海田ですけども、
1:48:39	今の宮脇の言ってるところの趣旨で、要は自分ところの探査記録でもないかな。
1:48:47	そういうのがないっていうんだったら示して、
1:48:50	いただきたいというところ。
1:48:52	なんですけども、今、文献がベースになって
1:48:56	けどまあ探査記録でっていうことで、
1:48:58	ちょっと見てみたところ、
1:49:01	補足資料の、
1:49:05	3.2-4-8 とか、
1:49:07	3.2-4-9 とか、
1:49:10	こういったところっていうのは、
1:49:13	そういったところに、要は間の部分に、
1:49:17	該当するもんで、
1:49:19	ないのかっていうところ。
1:49:22	をちょっと聞きたかったんですが、
1:49:26	L3 とか、L4 ですね、ここは
1:49:29	ちょっと平面の方に笹波沖
1:49:32	断層が書いてないので、隆起退学しか書いてないんで、ちょっと関係がわかんなかったんで、
1:49:39	その、
1:49:40	このL3L4 あたりで何か

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:43	褶曲軸があるかないかとかってというのが、
1:49:46	わからないのかっていうところちょっと教えていただきたい。
1:49:52	北陸電力 1 社です。
1:49:53	さっき、私が言いましたのは、ちょうどそれこそ猿谷牧セグメントと笹波断層ダイトウ部の本当の近接する位置の間で、
1:50:04	あるかないかという意味では、この 2 測線しかなかったんですけども。おっしゃられるようにもう少し、いわゆる、
1:50:10	猿山セグメントの直線的な区間の延長位置、今の、
1:50:14	補足資料で、氏名、提示していただきました L3 測線ですとか、そういった意味では、もっと広い範囲を見れば、こういった猿山セグメントの
1:50:24	いわゆる層厚保護に対応した背斜構造があるかないかというところは、示すことができますので、そういった意味で、この背斜構造の有無ということ、
1:50:35	音波探査記録でも示していきたいというふうに、
1:50:38	考えております。以上です。
1:50:43	はい。海田です。はい。わかりました。ちょっとそのあたり両断層間で、
1:50:49	わかるような記録がないのかなというところを、
1:50:54	また、
1:50:56	見つけるというかあればそういったものを示して、説明していただきたい と思い
1:51:01	あと、
1:51:02	そういった主背斜軸の話は、
1:51:06	今ページが、
1:51:08	使わなくなったんですけどその断層の
1:51:11	上盤側に近接して、
1:51:13	4 連動のところは、
1:51:15	層位
1:51:16	連続してるっていうのが、
1:51:18	どっかあったような気もして、
1:51:22	上盤側の部分も、記録があるかもしれないと。
1:51:26	そういう、そこも探してい
1:51:29	みるということよろしいで。
1:51:33	北陸電力一緒です。はい。基本的にはその上盤側。
1:51:38	にあたる部分で、そういったものがあるかないか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:43	というところを中心に、今の音波探査記録に関しましても検討したいと思います。以上です。
1:51:51	はい。わかりましたそこはまた検討をよろしくお願いします。
1:51:59	成長の宮脇です。
1:52:01	引き続き、
1:52:04	この表の中で、
1:52:07	これ記載表現、
1:52:12	なんですけどもBは早期で、
1:52:15	の変位量の分布の記載でですね
1:52:18	収束するという言葉がよく使われているんですけども他のところにも
1:52:24	これちょっとわかりづらい表現特にグラフがあればこういう
1:52:30	大体意味がわかるんですけども、
1:52:32	5 文章だけで収束するっていうふうに書かれるとちょっと、
1:52:37	初めて見る人わからないんで断層の両端に向かって変位量が小さくなる。
1:52:43	というような何かもう少しわかりやすい記載にしていただけないでしょうか。
1:52:49	北陸電力 1 社です。承知しました。評議員について、見直したいと思います。以上です。
1:52:55	はい。よろしくお願いいたします。
1:52:58	あとですね
1:53:00	その下の、
1:53:03	これ最新活動時キー
1:53:05	について
1:53:08	記載されてるんですけども、
1:53:10	この
1:53:15	これですね
1:53:18	笹波沖断層ダイトウ部と、
1:53:20	猿山沖。
1:53:24	セグメントとの、その最新活動面についてはですね。
1:53:28	ええ。
1:53:31	これは 2007 年の能登伴と、
1:53:35	地震の震源断層であり、猿山セグメントと。
1:53:39	活断層時期が異なる。
1:53:42	というふうに書かれているんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:44	この猿山オグセグメントのところは不明っていうふうに書かれるとですね えっと、
1:53:50	その活動性の比較っていうのはできないんでこの、
1:53:55	記載、
1:53:56	法、少し、
1:53:58	適正化していただけないですかね。例えば 2007 年の地震以前、
1:54:04	より前とか、
1:54:09	北陸電力 1 社です。承知しました。
1:54:12	土佐令和セグメントのところもそうですしされ、笹波沖断層体制部につき ましても同様かと思いますので、
1:54:19	こちらについても修正したいと思いますし、
1:54:22	能登半島北部沿岸断層体にいきますと、1729 年の能登里地震もござ いますので、
1:54:28	こういったところも、対応していないということがわかるように修正したい と思います。以上です。
1:54:36	はい、承知しました。
1:54:38	よろしくお願いします。
1:54:40	規制上側から、他に
1:54:47	規制庁の海田です。
1:54:49	佐々波と能登半島北部演劇のエンドウの評価のところ、
1:54:55	これ
1:54:58	審査会合での指摘の趣旨っていうのはやっぱ 4 連動のところ、
1:55:03	4 年度ですかねこの能登半島北部沿岸
1:55:07	のところを見ると、
1:55:11	連動を示唆するようなもの、情報もあればないような情報もあってそれ でもやっぱり連動していると、
1:55:19	ただ笹波沖断層体とその能登半島北部の間の部分っていうのも、
1:55:26	の違いっていうかそこは連動しないと評価してるっていうのは、
1:55:30	どういったものかっていうところがわかるようになっていうところも、
1:55:34	コメントの趣旨で入ってたんですけど。
1:55:38	そういった観点で見ると、
1:55:41	資料の 264 ページを、
1:55:45	見ていただくと、
1:55:49	その 4 連動を示唆してるところの評価の紙はコガキノシタですよ一 番。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:57	下のマルですか。なおって書いてあるところで、
1:56:00	重力とか、そういったもんで連動しない可能性を示唆するデータがあると。
1:56:07	だけど、
1:56:09	そのあとですよ。会場パターンそこから推定した、セグメントの走向傾斜が類似し、
1:56:16	で、
1:56:18	境界部には直線上に平荘区間を伴って分布している区間連続する区間があるから
1:56:25	同時活動を否定できないと。
1:56:30	この走向傾斜の類似性と、
1:56:32	直線上に、さっきも直線上についていう話があったんですが、直線状の閉塞感を伴って分布している区間、
1:56:40	連続する区間というのが、
1:56:42	一番肝になってるといような書きぶりになってるんですけど。
1:56:47	ただ者、
1:56:48	350
1:56:51	453 ページ。
1:56:56	以降の、453 ページにまとめみたいな記載があって、
1:57:02	ここ、
1:57:04	そこら辺が、総合評価のところを見ても、
1:57:09	何か違いがどこに着目してここは
1:57:14	要は、走向傾斜の類似性がないってところとか、
1:57:18	うん。
1:57:19	平荘区間がとか、
1:57:21	っていうところがあんまり際立ったような書きぶりになってなくて、
1:57:26	いろんなことが羅列して書いてるように見えてい着目点がよくわからない。
1:57:32	そこは
1:57:33	江藤 4 連動との、
1:57:35	差別化というか違いをし、わかりやすくするためには、もうちょっとその辺りがわかるように
1:57:41	記載を工夫できない。
1:57:45	北陸電力 1 社です。
1:57:47	おっしゃられるように、能登半島北部沿岸域断層体に関しましては、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:53	青色のいわゆる連動を示唆しないデータが存在するにもかかわらず、
1:57:59	我々としてはやはり直線上に、
1:58:01	閉塞感を伴って連続している、背斜構造が連続している、いわゆる連続
1:58:06	しているところかなり、
1:58:09	重みづけといたしますか。
1:58:12	赤色の中でも結構重いデータだというふうに我々考えています。
1:58:16	いわゆるこの赤色のデータが、今笹波沖断層田井東部と猿山オギセグメントの間には、ないという、タダないというふうな書き方になっているんですけども、
1:58:27	ハタヤノドハンドの4連動の方で言いますね。4連動の方にも、いわゆる重力ですとか変位量分布でも、青字のデータがあるにもかかわらず、連動しているというところの差別化が、確かにこの453ページの方でできていないというところがございますので、
1:58:42	と同じ青字はあるにもかかわらず、
1:58:46	いわゆるこちらは赤だけこちらは青なので、いわゆる肝の部分が青なので、連動しないというような書き方。
1:58:54	そういうことがわかるような書き方をちょっと検討してこの453ページの方もそうですし、460、
1:59:01	6ページのこの一覧表の、この
1:59:05	下の評価結果の方にも、それがわかるような書き方をしたいと思いません。以上です。
1:59:12	はい。海田です。そうですねそこはぜひよろしく申し上げます453ページもそうですし、今ほどおっしゃった466ページもですね先ほど来、
1:59:24	なので傾斜がとかっていう話も、ちょっといろいろ、
1:59:28	突っ込んで、
1:59:30	ほぼ
1:59:30	平仄を整え、そろえてくださいとか、そういうところも、
1:59:36	コメントしてますんで、
1:59:38	dす。平荘区間がとかそれが直線上にとかっていうのも、この表で、
1:59:46	やっぱそこが違うんだっていうところが、
1:59:49	着目点がわかるような形で大事なところはもうちょっとしっかりわかるような、
1:59:55	考え方がわかるようにまた、
1:59:59	工夫した記載をしていただきたいので、よろしくお願ひし
2:00:05	それと、今の点、よろしいですかね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:10	はい北陸電力一緒に承知しました。
2:00:12	はい。で、ちょっとまたこの表の中で一部確認したいところがあるの すみません戻っちゃい
2:00:20	んですけど、
2:00:22	と。
2:00:25	平荘区間とか傾斜っていう観点重要だというところでそこは今後、
2:00:35	書いていただんですけど、
2:00:41	ちょっと似たような形のところで、
2:00:47	332 ページを
2:00:55	お願いし
2:00:56	332 ページこれ全然別の、
2:00:59	ナミヘイヤ、
2:01:02	なんですけど、
2:01:04	この
2:01:07	法輪寺断層と石動断層の関係見ると、
2:01:11	割と、これもやっぱ同じように、
2:01:13	七、八キロ離れてて、
2:01:15	近づいていくところになると、
2:01:19	呉とコウ法輪寺断層が、
2:01:22	かなり
2:01:22	60 度ぐらいでまじってくような形になって、
2:01:27	一部閉塞感があるのかないのか。
2:01:31	これはちょっと、
2:01:32	わかりづらいんです。
2:01:34	これは
2:01:35	一連の断層、
2:01:37	もう連動っていうよりは
2:01:40	一つの断層体っていうことになってんですけど、
2:01:43	これとは、何か違いがあるとかそういうのは何か
2:01:51	何か検討というか、そういうお考えってありますか
2:02:03	遅れる北陸電力の小林です。今ほど、
2:02:07	言われましたコミヤ断層体制部。
2:02:09	ですけど、まず、ここは一つ大きなところとして、地震調査委員会の方 で、いろいろなデータをかんがみた上で、
2:02:20	一つの断層体としているという、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:24	そういった
2:02:26	評価結果がありまして、文献が一つのものとしているというのが一つ大きなところとしてあります。
2:02:32	で、あとはこの連続性といえますか、
2:02:36	形態的な関係ということに関しましては、こっち、これらの断層なんです が今、中セキ部屋と、丘陵の境界にありまして、
2:02:47	ちょうどこのあいだのところで、例えば反射法のデータですとかそういった ものが、してませんでして、なかなかその沖積に潜ってしまっていて、
2:02:57	連続性がないというところまでは確認できていないというところがありま す。
2:03:02	そういった点をもって、
2:03:04	先ほどの
2:03:07	津波と北岸、榎半島北岸系の断層の関係とは、違うというふうに考えて おります。以上です。
2:03:16	はい。赤井さん。
2:03:19	わかりました情報量の違いって言うと
2:03:23	わかりました。一応そういった
2:03:26	お考えだというところは、
2:03:29	確認できたんでまたこちらで考え、見てみ
2:03:37	後、
2:03:39	ぱらぱらと睡魔
2:03:41	背斜軸の連続性っていうところで、
2:03:47	467 ページ。
2:03:49	を見ると、
2:03:52	前にも話題が出たと思うんになったと思うんですけど、
2:03:58	両断層、要は笹波と、
2:04:02	マルヤマの間っていうのは、陸とか見ると、
2:04:06	黄色い
2:04:08	ところに、特に
2:04:09	赤い
2:04:10	背斜軸も繋がってるように見えてて、
2:04:14	これっていうのは、もう第三期の褶曲で、新しいもんじゃないっていうの は、
2:04:21	何かで確認はされてるんで文献はもうこう書いてある 3 期の中の、
2:04:28	3 期とかも 4 期の初めぐらいの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:33	なんで、
2:04:35	終局だっていうふうに書いてあるって言うけど、
2:04:38	そういうもので、新しいもんじゃないということでもよろしいんですかね、これ。
2:04:44	北陸電力石田です。
2:04:46	おっしゃられるように、我々今記載しているのは文献、
2:04:50	そしては大滝委員。
2:04:52	2010の方で古井。
2:04:54	構造であるというふうに書かれていると。
2:04:57	いうところがまず一つ、記載してございます。
2:05:00	もう一つ、
2:05:02	こちら 30 キロ圏内になりますので我々としましては、この辺陸域の調査として、リニアメント変動地形の調査等も行っております。
2:05:10	そういった観点で、この周辺には、こういった規模の断層は推定されていないと。
2:05:17	いうことを考えますと、やはり新しい構造というよりは、古い構造が、
2:05:23	上になってくるのではないかとというふうに考えております。以上です。
2:05:29	はい。海田ですわかりましたそういった情報もあるんならここにそういうものはないんだっていう、
2:05:35	こういったのは古いもんなんだっていうのは、
2:05:38	このオザキが、※2 の記載以外にあるのであれば、何か示しておいていただければ、
2:05:45	と思えますのでよろしくお願いし
2:06:08	規制庁海田イセアノ。
2:06:10	すいません先ほどの点もし追加の
2:06:15	補足情報があれば、
2:06:17	という、思いますけど、よろしいですか。
2:06:20	グループリーダーです。すいません。はい。陸域の情報も含めて、
2:06:27	追加したいと思えます。以上です。
2:06:31	ではよろしくお願ひします
2:07:48	はい、規制庁の宮脇。
2:07:50	最後もう 1 点、
2:07:55	490、
2:07:56	1 ページ
2:07:57	します。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:58	これはトナミ
2:08:00	断層体。
2:08:02	と高岡断層と富山湾西岸断層。
2:08:06	はい。今回事業者はこれ3連動するという
2:08:11	評価をされたわけですけども、
2:08:14	この長さの測り方ですね断層長のかかり方、この491ページは、
2:08:22	断層の端点を直線的に結んで距離を測定してるように見えるんですが、一方ですね、23ページの方、
2:08:39	こちらの方は
2:08:41	屈曲した断層沿いに何か測ってるように見えるんですけども、
2:08:47	これはどちらも123キロというふうにしてるんですけどもどのようにこれ計測されたんで、
2:08:57	北陸電力一緒です。
2:08:58	測り方としまして、測り方の模式図といたしましては、
2:09:03	23ページの絵が、
2:09:05	正しいものになりまして、
2:09:08	先ほど、外山西川海域断層の個別の断層長さを変更したというところでもご説明させていただきましたけれども、
2:09:16	やはり富山湾の絵を、
2:09:19	北部とティービーさんの間で相互が大きく変化するというので、
2:09:24	外山の北部からトナミへや断層体までは、
2:09:29	の南西丹までは、直線的に観点同士を結んでおります。
2:09:34	で、富山湾西側海域断層の北部とティービーさんの間で折れ点を設けてまして、そこからTbさんの北東端部までを、の断層の長さを足し合わせまして123キロを算出しております。
2:09:47	以上です。
2:09:50	はい、わかりましたじゃアノ。
2:09:52	これ両方あるとどっちかわからないんで
2:09:56	どこをどういうふうに
2:09:59	計測したのかというのがこの断層体以外についても共通なんですけども、わかるように
2:10:07	していただけない。
2:10:10	北陸電力1社です。
2:10:11	はい、承知しました。先ほどの外山西垣断層につきましても、断層長の長さの算出方法をちょっと工夫して示すということで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:21	こちらのトナミや高岡とトナミ、富山湾につきましても、どういうふうに出したかというのがわかるような表記にしたいと思います。
2:10:32	ちなみにこの断層体以外につきましては、基本は両端点を結んだ求め方をしておりますので、
2:10:40	基本的には、
2:10:42	この示し方で問題ないんですけども、この
2:10:45	富山湾が絡むものについてはちょっと特殊な断層長さの算出方法をしていまして、それについてはわかるようにしたいと思います。以上です。
2:10:55	はい。
2:10:55	ではよろしくお願いいたします。
2:10:58	私からは以上になりますけども、規制庁側から全体を通して、何か
2:11:08	規制庁海田です。ちょっともういっぺん確認なんですけど 355 ページのこのフローのところで、
2:11:18	と、
2:11:20	確認させていただきたいんですが
2:11:24	ここで年度を考慮するのと考慮しないっていう、
2:11:29	黄色い箱書きのところに書いてあって、
2:11:34	ここの連動っていうのは、
2:11:39	4 ページでしたっけ、エンドウと同時活動の定義を書きましたという。
2:11:45	のがあったんですけども、
2:11:49	この連動
2:11:51	要は主断層主断層、
2:11:53	が同時に活動するものが連動であって、
2:11:57	の、そうじゃないものは連動じゃないっていう、それぞれもう、
2:12:02	一致してるということでよろしいんです
2:12:07	はい。北陸電力木村です。355 ページの連動を考慮する転動を考慮しないという、
2:12:13	ここで用いているエンドウについては、すべて、4 ページに書かれている、同時活動伝導の定義、
2:12:21	この
2:12:22	ここの説明の通りでございまして、ここで、
2:12:25	この資料上で使われている連動という用語は、すべて、
2:12:31	主断層主断層の断層の同時活動ということを指しております。以上です
2:12:39	はい、わかりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:41	そうするとですねちょっと私この話で
2:12:45	と、
2:12:46	笹波沖等海士岬の
2:12:50	エンドウのところで、ここをたどって行って、
2:12:54	一番右側のところ、要はそれぞれがどっちが主になるか。
2:12:59	わかんないんでこの流れじゃないかなって話をちょっとしたんですけど。
2:13:04	そうする。
2:13:05	そういう意味であれば、連動を考慮しないってところを1回通っちゃうんで、
2:13:12	さっきのYの字のどっちを通るかっていう話はまたこことはちょっと違うという。
2:13:18	そういった古藤んかなと今、この資料見てて思ったんですけども。
2:13:27	そこはいかがです
2:13:41	北陸電力の野原です。1点確認ですが、
2:13:45	今の江藤海田さんのお話は笹波東部西部の話と笹波
2:13:51	東部、海士岬の、
2:13:53	この二つの断層の関係の話でよろしいですか。
2:13:58	はい。笹波の全長と、
2:14:03	海士岬
2:14:04	これをもしY-Gと見たときに、どうなるかっていう。
2:14:10	場合もあれば、
2:14:11	その場合には片方が、
2:14:15	エンドウしないっていうふうになるんですけど、
2:14:18	東部と海士岬だけを見た時はこれ連動するっていうふうな流れになるんでちょっと途中でここ、単純にこの一番右側の方に、
2:14:30	行くんじゃないかってちょっとまじるような形になるのかなというふうにちょっと考えたんですけど。
2:14:35	そういった趣旨。
2:14:40	はい。北陸電力の野原です。笹波東部と海士岬という、その二つのケースにつきましては、355ページのフローでいきますと一番左の
2:14:51	Sに該当するかと思います。
2:14:54	また笹波東部と笹波西部、この組み合わせにつきましても一番左のケースはこれはもともと文献が面倒見てますんで、当社の評価で評価するとすれば一番左のケースになると思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:07	で、江藤タダさん笹波オーブと海士岬。
2:15:11	そして笹波全長。
2:15:13	この二つの関係を、
2:15:15	検討するときには、
2:15:18	一番右側のフローに、
2:15:20	なるのではないかと、なるというふう到我々解釈しております。
2:15:25	以上です。
2:15:26	はい、海田ですわかりましただからちょっと菌田元となる断層をどう通りに設定するかによって流れも変わってくるというところで、
2:15:36	そこは
2:15:37	今の説明で一応確認できました。
2:15:42	はい。
2:15:43	私からは以上で、
2:15:50	規制庁の大井です。最後 1 点、最後っか私から最後ですけど、
2:15:55	1. 駒井とところなんですけど 348 ページの、
2:15:59	この説明の時に、
2:16:02	えっとですね、多分この箱はコガキノシタのところを読まれたと思うんですが、
2:16:08	要するに小さな断層も検討対象とした影響が小さな断層も検討対象としたっていうのは、
2:16:15	ちょっと説明ちょっと聞き逃したかもしれないですけど
2:16:19	実際具体的にその影響の小さな断層でどれのことを言っていたんです。
2:16:24	高岡断層とかその辺りのこと言ってるんです。
2:16:28	ちょっと補足お願いしますお願いします。
2:16:32	北陸電力一緒です。
2:16:33	おっしゃられるように、この会議に関しましては高岡断層のことをさしております。
2:16:40	高岡断層単体。
2:16:43	に反対だけで言いますと、
2:16:45	15 キロ程度の長さの断層になりますので、いわゆる 30 キロ以遠のいわゆる、
2:16:54	文献、
2:16:55	ある程度、30 キロ以遠までいきますと我々としてはある程度規模の大きな断層を選んで、評価を行っています。
2:17:03	そうしますと、やはり 15 キロより大きい断層が、そもそも、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:17:07	30 キロ圏内はかなり数多くございますので、通常であれば高岡断層は、我々のそのフィルターから外れていく断層になります。
2:17:17	ただ、今連動評価をするに当たりまして、もともと検討対象としておりますトナミ、トナミ部屋断層体制部の、
2:17:27	かなり近い位置にその高岡断層がありますので、この高岡断層と、トナミ池谷断層体の西部、
2:17:35	の連動について、検討対象としたと、いうことを明記したというのがこのコメントの趣旨でございます。以上です。
2:17:45	はい。規制庁の大上です。はい。書かれてることすいませんちょっと少し読みきれてませんでした。一方でステップ1ってところのルールルールっていうか何かこう、
2:17:55	組み合わせの選定のところに書くということは、要するにほかには、
2:18:01	そういう影響の小さな断層の検討対象とした上でも、
2:18:05	349 ページの通りに、
2:18:08	それ、それに当たるものがタカオ高岡断層に近いような、
2:18:12	そういうものがほか、
2:18:13	何て言うのか。
2:18:15	その影響の小さな断層も検討対象としたとしても
2:18:19	組み合わせとしてはもうこれだけですよってというのはもう確認されてるという理解でよろしいですか。
2:18:26	北陸電力伊佐です。
2:18:28	今回提出させていただいている会議の資料に関しましてはこの高岡断層のみが該当するケースとなります。以上です。
2:18:35	はい。規制庁の伊井です。確認できました。私からは以上です。
2:18:41	規制庁の宮脇です。以上、規制庁側からの確認事項。
2:18:49	すべてですけども、北陸電力の方から何か補足とかありますか。
2:18:55	ないようでしたら終了したいと
2:19:01	はい。喜多からはございません。ありがとうございました。はい。
2:19:07	それでは志賀原子力発電所2号炉、敷地周辺の地質地質構造についてのヒアリングを終了したいと。
2:19:17	ありがとうございます。
2:19:20	はい、どうもありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。